

# 官報

號外 昭和二十一年七月三日

## ○ 第九十四回 衆議院議事速記録第十號

昭和二十一年七月二日(火曜日)

午後一時五十四分開議

議事日程 第九號

昭和二十一年七月二日

午後一時開議

第一 金融緊急措置令(承諾を求める件)

第二 日本銀行券預入令(承諾を求める件)

第三 昭和二十一年勅令第九十號(日本銀行券預入令の特例の件)

第四 臨時財産調査令(承諾を求める件)

第五 昭和二十一年勅令第百二十號(所得稅法中改正等の件)

第六 昭和二十一年勅令第百十一號(通信事業特別會計又は帝國鐵道會計に於ける昭和二十一年度に於ける大藏省證券及び借入金の最

高額に關する件)×承諾を求める

關於する件)×承諾を求める件)

第七 昭和二十一年勅令第百二十號(復員に關する經費等支出の件)×承諾を求める件)

第八 昭和二十一年勅令第百五十號(生鮮食料品、石炭、鐵及び銅鉛に關する價格調整補給金等支出の件)×承諾を求める件)

第九 昭和二十一年勅令第百七十九號(政府職員の給與改善に伴ひ要する經費等支出の件)×承諾を求める件)

第十 昭和二十一年勅令第百八十一號(通信事業特別會計業務勘定又は帝國鐵道會計收益勘定に於ける昭和二十一年度の追加經費支辨又は歲入不足補填の爲の追加借入金及び帝國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)×承諾を求める件)

第十一 昭和二十一年勅令第百二十一號(昭和二十一年度に於ける大藏省證券及び借入金の最高額に關する件)×承諾を求める

第十二 昭和二十一年勅令第二百四十二號(外地等職員の歸還に伴ひ要する經費等支出の件)×承諾を求める件)

第十三 食糧緊急措置令(承諾を求める件)

第十四 隱匿物資等緊急措置令(承諾を求める件)

第十五 昭和二十年法律第三十四號(衆議院議員選舉法の一部を改正する法律)中まだ施行してゐない部分の廢止に關する法律案(政府提出)委員

一、去三十九日委員長ニ於テ次ノ通り常任委員辭任ノ許可ガアツタ  
次ノ通り當選シタ  
第六部選出  
豫算委員 岡田 勢一君

一、去三十九日委員長ニ於テ次ノ通り常任委員辭任ノ許可ガアツタ  
次ノ通り當選シタ  
第六部選出  
荒船清十郎君 小池 政恩君 滉澤 脩作君  
圓谷 光衛君 山田 善三君 小野 真次君  
原 夫次郎君 八木佐太治君  
坪川 信三君 松永 義雄君  
山村 定一君 河野 金昇君  
石原 登君 伊藤 恭二君  
和崎 ハル君  
江藤 夏雄君 高橋 泰雄君  
廿日出 麗君 長井 源君  
吉田 安君 菊地泰之輔君  
鈴木 義雄君 宇田 國榮君  
田中 久雄君 大島 多藏君  
稻田 直道君  
磯崎 貞序君  
大内 一郎君 坂田 道太君  
田中 実司君 瀧清 魔吉君  
星 一君 山口光一郎君  
逢澤 寛君 小笠 耕作君  
中村 高一君  
岡田 春夫君  
細田 綱吉君 矢尾喜三郎君  
川野 芳滿君 原尻 東君  
三木キヨ子君 丸山修一郎君  
正木 流君 森本 義夫君  
香川 兼吉君 駒井 藤平君  
澤田 ひさ君 高瀬 傳君  
天野 久君 白木 一平君  
橋 直治君 原 捨思君  
鈴木平一郎君 中島 守利君  
栗原大島太郎君 左藤 義詮君  
井上 卓二君 伊藤 鄉一君  
田中伊三次君 寺島隆太郎君  
書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ次ノ通り  
變更シタ  
一、去三十九日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ次ノ通り指定シタ  
三五九 松本 七郎君  
三六四 岡田 春夫君  
三六六 叶 凸君  
三六七 濵谷 升次君  
案(政府提出)外一件委員







農林大臣 副島 千八

運輸大臣 村上 義一

勅令第九十號

第一條 日本銀行券預入令ニ規定ス

ル舊券ニシテ日本銀行ニ於テ一定

ノ證紙ヲ貼附シタルモノハ大藏大

臣ノ定ムル日迄ハ之ヲ同令ニ規定

スル新券ト看做ス

前項ノ證紙ハ日本銀行之ヲ發行シ

其ノ種類及様式ハ大藏大臣之ヲ

定ム

大藏大臣前項ノ種類及様式ヲ定メ

タルトキハ之ヲ公示ス

第二條 行使ノ目的ヲ以テ前條ニ

規定スル證紙ヲ偽造又ハ變造シ

タル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ

處ス

行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ノ

證紙ヲ人ニ交附シ、輸入シ又ハ移

入シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ノ

證紙ヲ收得シタル者ハ三月以上五

年以下ノ懲役ニ處ス

前三項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
附 則

第一條 本令ハ戰時利得ノ排除、國  
家財政ノ再建、國民經濟ノ安定等  
ヲ目途トスル新稅ノ創設及確保ニ  
資スル爲命令ヲ以テ定ムル時期  
(以下調査時期ト稱ス)ニ於ケル個  
人及法人ノ財產等ヲ調査スルヲ以  
テ目的トス

第二條 調査時期ニ於テ左ニ掲タル  
財產ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所  
ニ依リ當該財產ニ關スル事項ヲ所  
轄稅務署ニ申告スベシ

官報號外 昭和二十一年七月三日

衆議院議事速記録第十號 金融緊急措置令(承諾を求める件)外十一件

項ニ依リ臨時財產調査令ヲ裁可シ之

ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十一年二月十七日

内閣總理大臣兼第一復員大臣第一  
復員大臣

男爵幣原嘉重郎

内務大臣

司法大臣

外務大臣

厚生大臣

國務大臣

大藏大臣

商工大臣

農林大臣

運輸大臣

小笠原三九郎

文部大臣

小林一三

農林大臣

副島千八

國務大臣

村上義一

國務大臣

厚生大臣

國務大臣

外務大臣

厚生大臣

國務大臣

大藏大臣

運輸大臣

一 預金、貯金其ノ他此等ニ準ズ  
ル債權ニシテ命令ヲ以テ定ムル  
モノノ  
二 公債、社債、株式其ノ他此等ニ  
准ズル財產ニシテ命令ヲ以テ  
定ムルモノ  
三 手形又ハ小切手ニシテ命令ヲ  
以テ定ムルモノ  
四 投資信託ノ受益權ニシテ命令ヲ  
以テ定ムルモノ  
五 前各號ニ掲タルモノノ外命令  
ヲ以テ定ムル財產

前項ノ場合ニ於テ同項ニ規定スル  
者(其ノ者が法人ナルトキハ當該  
法人ノ代表者及支配人其ノ他ノ代  
理人)ガ調査時期ニ於テ本州、北  
海道、四國、九州及命令ヲ以テ定  
ムル其ノ附屬島嶼ニ住所及居所ヲ  
有セタルトキハ命令ノ定ムル所ニ  
付シ

前項ノ指図ハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ前條ノ規定ニ依リ提出セラレタ  
ル當該有價證券其ノ他當該財產又  
ハ契約ヲ證する書面ニ政府ノ發行  
スル證紙ヲ貼附シ之ニ契印スルノ  
方法其ノ他命令ヲ以テ定ムル方法  
ニ依リ之ヲ爲ス

スル動産及債權債務ニ關スル事項

ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第七條 第二條又ハ第三條ノ申告ヲ  
爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所  
ニ依リ當該有價證券其ノ他當該財  
產又ハ契約ヲ證スル書面ヲ所轄稅  
務署ニ提出スベシ

ニ依リ當該有價證券其ノ他當該財

產又ハ契約ヲ證スル書面ヲ所轄稅

務署ニ提出スベシ

ノ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ當該有價證券其ノ他當該財

產又ハ契約ヲ證スル書面ヲ所轄稅  
務署ニ提出スベシ







人金額ハ通信事業特別會計ニ在リテ

ハ九千八百十萬圓、帝國鐵道會計ニ

在リテハ四億五千萬圓ヲ超過スルコ

トヲ得ズ

前項ノ規定ニ依ル借入金ハ通信事業

特別會計業務勘定又ハ帝國鐵道會計

收益勘定ノ歳入トシ當該借入金ノ償

還金及利子ハ夫々當該勘定ノ歳出ト

ス

帝國鐵道會計用品資金補足ノ爲政府

ハ帝國鐵道會計法第二條ノ規定ニ依

リ起債シ得ル金額ノ外一億七千六百

萬圓ヲ限リ當該特別會計ノ負擔ニ於

テ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコ

トヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差

減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於

テハ同項ノ制限額ヲ超エテ公債ヲ發

行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

#### 附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十一年勅令第二百四十一號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧

問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條第

一項ニ依リ昭和二十一年度ニ於ケル

大藏省證券及借入金ノ最高額ニ關ス

ル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

昭和二十一年四月二十六日

内閣總理大臣兼第二復員大臣

外務大臣復員大臣

内務大臣三土忠造

司法大臣岩田寅造

外務大臣吉田茂

内務大臣松本烝治

司法大臣岩田寅造

外務大臣吉田茂

内務大臣厚生大臣

農林大臣子爵瀧澤敬三

商工大臣小笠原三九郎

文部大臣安倍能成

運輸大臣千八

國務大臣副島義一

農林大臣石黒武重

運輸大臣千八

國務大臣副島義一

農林大臣石黒武重

國務大臣橋渡

勅令第二百四十一號

會計法第六條ノ規定ニ依ル大藏省證

券及借入金ノ最高額ハ昭和二十一年

度ニ於テハ豫算ニ定ムル金額ト通ジ

テ三十五億圓トス

昭和二十一年四月二十六日

内閣總理大臣兼第一復員大臣

外務大臣復員大臣

内務大臣三土忠造

司法大臣岩田寅造

外務大臣吉田茂

内務大臣厚生大臣

農林大臣子爵瀧澤敬三

商工大臣小笠原三九郎

文部大臣安倍能成

運輸大臣千八

國務大臣副島義一

農林大臣石黒武重

國務大臣橋渡

勅令第二百四十二號

政府ハ昭和二十一年度一般會計ノ歲

出トシテ左ニ掲グル經費ヲ支出スル

コトヲ得

一 外地等職員ノ歸還ニ伴ヒ要スル

経費 五千萬圓

二 復員ニ關スル經費

八億二千萬圓

三 終戰處理ニ要スル經費

三億二千五百萬圓

四 石炭價格調整補給金 五億圓

六 離還輸送ニ要スル經費 二億七千八百萬圓

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣石橋湛山君登壇〕

○國務大臣石橋湛山君登壇」

ナリマシタ金融緊急措置令外十一件ノ

緊急勅令事後承諾案ニ付テ其ノ提案ノ

理由ヲ御説明申上ゲマス

第一ニ金融緊急措置令、日本銀行券預入令及び日本銀行券預入令の特例の

預入令及び日本銀行券預入令の特例の

テ、累積シタ莫大ナ購買力ガ引出サレ

テ以テ相當退減致サレテ居ツタ認メ

ラレタノデアリマス、是ニ於キマシテ

當時政府ハ、一面ニ於テ緊急食糧對策

ヲ中心トル民生安定ノ爲ノ一連ノ

緊急諸方策ヲ實施致シマスト共ニ、金

融面ニ於テハ、既存ノ過剰購買力ノ主

要源泉デアリマス過剰現金及び預金等

ヲ一時封鎖致シマシテ、新タナ基礎ノ

上ニ資金使用ノ適正ナ調整ヲ行フコト

ガ同時ニ喫緊ノ要事デアルト考ヘラレ

タノデアリマス、ソコデ憲法第八條第

二項ノ規定ニ基キマシテ、金融緊急措

置令、日本銀行券預入令及び日本銀行

券預入令の特例の件ノ三緊急勅令ヲ制

定實施シタ次第デゴザイマス

次ニ財產調査令ニ付キマシテ御説明

申上ゲマス、終戦後政府ハ戦時利得ノ

排除、富ノ再分配、國民經濟ノ安定、

戰後財政ノ確立等、財政經濟ノ再建ニ

資スル爲メ、財產税等ノ新稅ヲ創設ス

テ參ツタノデアリマス、サウシテ是等

ノ法律案ハ、聯合國最高司令部ノ承諾

ヲ得マシタ上、本年ノ最初ニ開會セラ

レマスル帝國議會ニ提案スルコトニテ

ツテ居ツタノデゴザイマス、然ルニ議

會ノ開會ガ豫定ヨリモ相當遲レルノ已

ムナキ狀況ニ立チ至リマシタ爲ニ、其ノ間ニ財產税等ノ課稅氣構ニ依リマシテ、民間ニ於キマシテハ預金ノ引出シヤ、或ハ換物等ノ傾向ガ相當ニ盛ニナツタヤウニ見受ケラレタノデアリマス、同時ニ又生産活動ノ意欲ハ更角停滯シ勝チナ狀況ヲ現ハシマシテ、是所謂「インフレーション」ノ亢進ヲ刺戟スル弊ガ存シタ云フコトハ見逃スコトガ出來ナカツタ事實デゴザイマス、隨テ財產税等ノ新稅ノ調査時點ヲ速カニ確定致シマシテ、民心ノ安定ヲ及ビ預金ノ封鎖等金融緊急措置ノ實行圖ルノ必要ガ認メラレタノデアリマス、ソユデ政府ハ、日本銀行券ノ引換及ビ預金ノ封鎖等金融緊急措置ノ實行ニ即應致シマシテ、食糧、通貨、金融等ノ綜合經濟緊急對策ノ一環ト致シマテ、財產稅等ノ調査時點ヲ確定致スト共ニ、直チニ調査シテ置クノデナケレバ、後日財產狀態ノ確認ガ殆ド不可能トナルヤウナ、財產關係ノ移動ノ頻コトト致シマシタ、是ガ爲メ、憲法第八條第一項ノ規定ニ依リマシテ、本勅令ノ制定ヲ見ルニ至ツタ次第アリマス、本勅令ニ於キマシテハ、先づ調査時期ヲ本年三月三日午前零時ト定メタノデアリマス、次ニ調査事項ト致シマ

シテハ、第一ニ現金、預金、貯金又ハ有價證券等ノ財產及ビ生命保険、信託又ハ無盡等ノ契約關係ニ付キマシテ、個人及ビ法人ヲ通ジテ申告セシメタノデアリマス、第二ニ、一般ノ法人カラ調査時期現在ニ於ケル打切り決算ノ書類ヲ提出致サシメマシタ、第三ニ特定ノ事業ヲ行フ個人カラ調査時期ニ於ケル特定ノ動流等ヲ申告セシメマシタ、以上ノ三點ガ調査事項ノ要約致シタ所デゴザイマス、又此ノ調査ヲ短期間内ニ的確正當ニ行フコトニ付キマシテハ、特別ノ考慮ヲ拂ヒマシテ、マシテハ、特別ノ考慮ヲ拂ヒマシテ、マシテハ、特別ナル規定ヲ設ケタ次第デゴザイマス。

次ニ昭和二十一年勅令第百二十八號(所得稅法中改正等の件)ニ付テ申上ゲマス、去ル三月三日政府ハ終戰後ニ於ケル事態ニ對處致シマシテ、物價ノ安定ヲ確保シ、社會經濟秩序ノ維持ト國民生活ノ安定ト、直チニ調査シテ置クノデナケレバ、後日財產狀態ノ確認ガ殆ド不可能トナルヤウナ、財產關係ノ移動ノ頻コトト致シマシテ、是ガ爲メ、憲法第八條第一項ノ規定ニ依リマシテ本勅令ノ制定ヲ見ルニ至ツタノデアリマス。

次ニ昭和二十一年勅令第百十一號(通信事業特別會計及ビ帝國鐵道特別會計ニ於ケル借入金等ニ關スル昭和二十一年勅令第百十一號及ビ勅令第百八十號ニ付テ申上ゲマスガ、兩特別條第一項ノ規定ニ依リマシテ本勅令ノ制定ヲ見ルニ至ツタノデアリマス。

次ニ昭和二十一年勅令第百十一號(通信事業特別會計又は帝國鐵道會計に於ける昭和二十一年度の追加經費支辨の爲の借入金に關する件)、昭和二十一年勅令第百二十七號(復員に關する件)、昭和二十一年勅令第百五十九號(生鮮食料品、石炭、鐵體系ヲ創設致シマシテ、貨金、給與及び各種物資ノ價格ニ亘リ廣く改訂ヲ行ス、本勅令ニ於キマシテハ、先づ調査時期ヲ本年三月三日午前零時ト定メタノデアリマス、次ニ調査事項ト致シマ

及び電氣銅に關する價格調整補給金等支出の件)、昭和二十一年勅令第百七十九號(政府職員の給與改善に伴ひ要する經費等支出の件)、昭和二十一年勅令第百八十號(通信事業特別會計業務勘定又は帝國鐵道會計収益勘定に於ける昭和二十一年度の追加經費支辨又は

勤令第百一號ノ御制定ヲ仰ギマシテ、通信事業特別會計業務勘定ニ於キマシテ一億八千九百四十萬、帝國鐵道

及ビ貨金等ヲ基礎トシテ定メラレテ居リマシタノデ、ソレヲ此ノ儘ニシテ置キマスナラバ、新物價體系ノ設定ヲ見ル場合ニ於キマシテ、課稅ガ重キニ失シ、或ハ國民負擔ノ適正ヲ缺ク憂ヒガリマシタノミナク、新物價體系ノ確立、食糧、通貨、金融等ノ諸政策ノ遂行ノ上ニモ亦支障ヲ來スモノト考ヘラレタノデゴザイマス、而モ其ノ決定ハ急ヲ要シマシテ、議會ノ開會ヲ待ツコトガ出來ナイ事情ニゴザイマシタノデ、所得稅、營業稅、遊興飲食稅、入場稅、特別入場稅及ビ特別行爲稅ニ付キマシテ、基礎控除額、免稅點及ビ扶助等ノ處置ヲ講ズルコトガ必要ト相成

勤令第百一號(昭和二十一年度に於ける大藏省證券及び借入金の最高額に關する件)、昭和二十一年勅令第二百四十二號(外地職員の歸還に伴ひ要する國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十一號(昭和二十一年度に於け

る國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十二號(外地職員の歸還に伴ひ要する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十三號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十四號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十五號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十六號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十七號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十八號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百四十九號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十一號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十二號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十三號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十四號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十五號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十六號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十七號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十八號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百五十九號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十一號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十二號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十三號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十四號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十五號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十六號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十七號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十八號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百六十九號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十一號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十二號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十三號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十四號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十五號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十六號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

二百七十七號(國鐵道會計用品資金補足の爲の公債發行に關する件)、昭和二十一年勅令第

テ、通信事業特別會計業務勘定ニ於キ

マシテ九千八百十萬圓、帝國鐵道會計  
収益勘定ニ於マシテ四億五千萬圓ヲ限  
リ借入金ヲナシ得ルノ權能ヲ得マシ  
タ、又帝國鐵道會計資本勘定ニ於キマ  
シテ一億七千六百萬圓ヲ限り公債ヲ發  
行シ、又ハ借入金ヲナシ得ル權能ヲ得  
タノデゴザイマス

以上述ベマシタ如ク是等ノ諸經費ハ

何レモ公共ノ安全ヲ保持スル爲ノ緊急  
ノ需用ニ基クモノデゴザイマシテ、總

選舉後ニ於テ召集セラレマス帝國議會  
ノ開會ヲ待ツコトガ出來マセスノデ、  
政府ハ豫備金外支出ヲ餘儀ナクセラレ

タノデアリマス、隨ヒマシテ其ノ財源  
調達ニ關シマシテモ、憲法第八條及ビ  
第七十條ノ規定ニ基イテ兩勅令ガ制定

公布セラレタ次第アリマス

次ニ昭和二十年度及ビ同二十一年度  
ノ一般會計ニ於ケル緊急缺クベカラザ  
ル經費ヲ支出ニ關スル昭和二十一年勅  
令百二十七號、同勅令第百五十九號、  
同勅令第百七十九號及ビ同勅令第  
二百四十二號ニ付テゴザイマスガ、  
昭和二十年度及ビ同二十一年度ノ一般  
會計ニ於キマシテハ、終戰後ノ新事態  
ニ對處致シマスル等ノ爲メ、緊要ナル  
各種經費ヲ支出ヲ必要トスルニ至ヘタ  
ノデアリマスガ、衆議院方解散セラ

レ、且ツ第二豫備金モ拂切りノ狀況ニ

アリマシタ關係上、政府ハ已ムヲ得ズ  
右ノ諸勅令ノ御制定ヲ仰ギマシテ、之

ニ基イテ是等ノ緊急經費ヲ支出致シタ  
ノデゴザイマス、而シテ是等ノ勅令ニ  
依リ支出ノ權能ヲ得マシタ經費ハ、昭

和二十年度分トシマシテハ、復員ニ關  
スル經費、引揚民對ニ關スル經費、  
生鮮食料品、石炭、鐵及ビ電氣銅ニ關  
スル價格調整補給金、外地職員ノ給與  
ニ要スル經費、地方職員ノ給與改善ニ  
伴ヒ地方公共團體ニ對シ補助スルニ要

スル經費、緊急開拓事業施行ニ關スル  
經費、政府職員ノ給與改善ニ件ヒ要ス

ル經費、地方公共團體ノ疎開事業費ニ  
對シ補助スルニ要スル經費等ノ十九件

デアリマシテ、其ノ金額ハ合計四十三  
億七千五百八十三萬七千圓ト相成リマ  
シタ、又昭和二十一年度分トシテハ、  
豫算ニ依ル經費ノ支出ノ外、終戰ニ伴

外地等職員ノ歸還ニ伴ヒ要スル經費、  
復員ニ關スル經費、終戰處理ニ要スル  
經費、石炭價格調整補給金、歸還輸送

ニ要スル經費等ノ六件デアリマシテ、  
其ノ金額ハ合計二十一億二千三百萬圓

ト相成リマシタ、兩年度分ヲ通じマス  
ルトキハ其ノ件數ハ二十五件デ、金額

ハ約六十一億五千餘萬圓ト相成ル狀況  
イマシタノデ、茲ニ憲法第七十條第一

項ニ基ク本勅令ノ御制定ヲ仰イデ之ヲ  
増額シタ次第アリマス、

以上ヲ以テ説明ヲ申上ゲタ次第ア  
リマスガ、何卒御審議ノ上御承諾アラ

シコトヲ偏ヘニ御願ヒ致シマス(拍手)  
○議長(樺貝證三君) 質疑ノ通告ガア  
リマス、之ヲ許シマス——川島金次君

態ニ即應シマシテ、緊急ニ其ノ支出ヲ

必要トスルニ至ツタモノデアリマシ  
テ、且ツ其ノ性質上早急ニ處理ヲ要シ  
タ次第アリマス、總選舉後召集セラ

ノデゴザイマス、而シテ是等ノ勅令ニ  
依リ支出ノ權能ヲ得マシタ經費ハ、昭

和十條第二項ニ基イテ是等ノ勅令ノ御制  
定ヲ仰イダ次第ゴザイマス

最後ニ、昭和二十一年勅令第二百四  
十一號、昭和二十一年度に於ける大藏  
省證券及び借入金の最高額に關する件  
ニ付テ申上ゲマスガ、昭和二十一年度

一般會計ノ四月乃至六月ノ三箇月間ニ  
於ケル收支ノ狀況ハ、當時ノ豫想ト致  
シマシテハ、普通歲入約二十六億七千

餘萬圓ト相成リマシテ、例年ニ比シ大  
差ナキ狀況ヲ示シテ居ツタノデアリマ  
シテ居リシテ、隨テ其ノ最高額ヲ改メ

マシテ、三十五億圓ニ増額スル必要ガ  
ツテ居リシテ、然ルニ大藏省證

券及ビ借入金ノ最高額ヲ增額致シマス  
ニ付テマシテハ、會計法第六條第三項ノ

アツタノデアリマス、然ルニ大藏省證  
券及ビ借入金ノ最高額ヲ改メ

マシテ、三十五億圓ニ増額スル必要ガ  
ツテ居リシテ、隨テ其ノ最高額ヲ改メ

マシテ、三十五億圓ニ増額スル必要ガ  
ツテ居リシテ、隨テ其ノ最高額ヲ改メ

マシテ、三十五億圓ニ増額スル必要ガ  
ツテ居リシテ、隨テ其ノ最高額ヲ改メ

マシテ、三十五億圓ニ増額スル必要ガ  
ツテ居リシテ、隨テ其ノ最高額ヲ改メ

國庫金ヲ調達スルノ必要ヲ生ズルコト

ト相成ツタ次第アリマス、而シテ右  
ノ諸經費ハ何レモ緊急ノ需用ニ基クモ  
ノデアリ、隨ヒマシテ國庫金ノ調達モ  
ヲ中心トシテノ當局ノ所見ヲ御伺ヒ致

ス、然ルニ大藏省證券及ビ借入金ノ最  
初頭デアル實情ニ鑑ミマシテ、會計  
法第六條ノ規定ニ基キ大藏省證券

ノ發行又ハ日本銀行ヨリノ借入金ニ依  
ルノヲ最適當ト致シタ次第アリマ  
ス、然ルニ大藏省證券及ビ借入金ノ最

高額ハ、施行豫算ニ於テ五億圓ト相成  
マシテ、三十五億圓ニ増額スル必要ガ  
ツテ居リシテ、隨テ其ノ最高額ヲ改メ

○川島金次君 私ハ主トシテ本日提案

サレマシタ金融緊急措置令並ニ財產調  
査令ニ關シ「インフレーション」防止

シタク登壇致シマシタ、時間ガゴザイ  
マセヌノデ、質問要旨ヲ簡單率直ニ申

上ゲタイト思ヒマス、但シ當局ノ之ニ  
對スル答辯ハ飽クマデモ、言フニ及バ  
ナイ次第アリマス、

大藏大臣ハ先日ノ豫算總會席上ニ於  
テ我ガ黨ノ井上議員ノ發シマシタル  
質問ニ答マシテ、國民生活ノ國家的管  
理トモ申上ゲベキ五百圓生活問題ニ對  
シ、出來ルナラバ斯様ニ緊急措置令

ハ、一日モ早ク、速カニ撤廢スルコト  
シテ、而モソレニ附加ヘマシテ、今ノ  
経済狀態ハ恰モ冷蔵庫ニ入レタ冷凍魚  
ノヤウナ狀態デアル、之ヲ誤ツテ外ス  
ト、折角固マツテ居ル冷蔵魚ガ腐ル處  
ガアル、斯ウ答ヘテ居ルノデアル、其ノ  
比喩ガ當ツテ居ルカ當ツテ居ラヌカハ  
別ト致シシ、私共ノ立場カラ申上ゲ

マスルナラバ、大藏大臣ハ今日ノ經濟  
一般勤勞大眾ノ立場カラ申上ゲマスナ  
ラバ、當局ノ財政經濟政策ヲ此ノ儘遂

行致ストシマスルナラバ、寧ロ國民大衆ハ干乾シニナル處ガアルノデハナイカトサヘ私ハ申上ゲタインデアリマス(拍手)殊ニ五百圓ノ生活ヲ以テ國民ニ強ヒルト云フコトハ、取リモ直サズ國民生活ヲ五百圓ノ枠内ニ於テ國家的ナ管理ヲ致シテ居ル事柄ニ相當スルノデアリマス、私ガコ、兩三日來東京都ヲ中心ト致シマシテ、近縣ノ犯罪容疑者ヲ留置致シマシタル場合ノ、留置人ノ食糧ノ經費ヲ調査致シマスル所ニ依リマスト、最低平均一人ノ一回分ハ一圓二十錢ニナツテ居リマス、犯罪ノ容疑者ヲ以テ警察署ニ留置致シテ居リマスルノ人件費ニ於テモ、一回分ガ一圓二十錢ニアリマス、一日ニ之ヲ換算致シマスルト、申スマデモナク二圓六十錢、之ヲ假ニ我々國民勤勞大衆ノ家庭生活ニ於ケル所ノ家族人ヲ平均致シマスルナラバ、大體五人ト見テ差支ナイデアリマセウ、此ノ五人ノ家族ヲ留置人ニ換算シテ養ウテ行クト致シマシテモ、即チ一日一人三圓六十錢、五人ノ家族デハ優ニ正ニ五百圓ノ食糧費ガ掛ッテ居リ、今日政府ハ掛ケテ居ルノデアリマス、斯様ナ狀態カラ起算致シマシテモ、果シテ今日ノ食糧乾餉ト物價ノ昂騰ニ即應致シマシテ、我々國民、殊ニ

勤ケル勤勞大衆ノ生活ガ保障サレル伴内テアルト今日デモ當局ハ考ヘテ居リマスカドウカラ伺ヒタイノデアリマス(拍手)最近厚生省ノ勞政局給與課ニ於テ調查ヲ致シマシタ計數ヲ見スルト、是ハ本年ノ四月頃ニ厚生省ガ調査ヲシタ存ジ上ゲテ居ルノデアリマスガ、其ノ場合全國ノ勤勞大衆ノ生活實情調査ヲ致シタ結果、六大都市ニ於キマシテノ勤勞者ノ生活狀態ト云モノハ、收入ガ五百四圓八十二錢ノ平均デアリ、之ニ對シテ生活費ノ支出ガ八百四十四圓八錢ト云フコトニナツテ、差引實ニ三百四十四圓四十錢ト云フ生活的ナ赤字ヲ續ケテ居ルト云フコトガ、調査報告ニ依リテ判明ラシタノデアリマス、更ニ

人口五萬以上十萬内外ニ瓦ル中小都市ノ勤勞者ノ生活狀態ノ調査結果ニ依リマスルト、是レ亦收入ガ三百四十四圓八十五錢ノ平均デアリ、之ニ對スル支那シテ生活費ノ支出ガ八百八十四圓八十錢アル、其ノ差引實ニ五百三十九圓八十二錢ト云フ赤字ヲ出シテ、勤勞大衆ト云フモノハ生活ヲ續ケテ居ルト云フモ厚生省ノ調査ニ依ソテ判明ラシタノデアリマス、聞ク所ニ依リマスト、昨夜ノ晚、大藏省ノ省内ニ於キマシテハ、大臣ヲ中心ニ各局長、課長等ガ鳩

首癡議ヲ致シマシテ、此ノ五百圓生活問題ニ付テ熱心ナル協議ヲ行シタト云マスカドウカラ伺ヒタイノデアリマス(拍手)最近厚生省ノ勞政局給與課ニ於テ調査ヲ致シマシタ計數ヲ見スルト、是ハ本年ノ四月頃ニ厚生省ガ調査ヲシタ存ジ上ゲテ居ルノデアリマスガ、其ノ場合全國ノ勤勞大衆ノ生活實情調査ヲ致シタ結果、六大都市ニ於キマシテノ勤勞者ノ生活狀態ト云モノハ、收入ガ五百四圓八十二錢ノ平均デアリ、之ニ對シテ生活費ノ支出ガ八百四十四圓八錢ト云フコトニナツテ、差引實ニ三百四十四圓四十錢ト云フ生活的ナ赤字ヲ續ケテ居ルト云フコトガ、調査報告ニ依リテ判明ラシタノデアリマス、更ニ

タ如ク、容疑者、留置者ノ食糧生活ダケヲ賄フ經費ニ於テモ、五人ト致シマスラバ、五百圓ニ相當スルト云フ此ノ實情ニ鑑ミマシテ、勤勞大衆ノ生活ガ果シテ五百圓デ今日保障サレルカドウカ、當局ハ此ノ資金凍結ヲ致ス場合ニ、國民ノ大體ノ生活標準ハ五百圓デ事足リルト云フ標準ヲ以テ確定ヲ致シタノデアル、然ラバ今日ノ物價狀況ニ照シテ、尙且々今日ニ於テモ五百圓ノ居ル所ノ勤勞階級ニマデ今日課稅ヲシテ居リマス、大藏大臣ガ最早國民ノ生粹内生活ガ適當デアルト今日マデ考ヘ活ガ五百圓デハ立行カナイト、屢々新事柄ニアリマス、本來テアリマシタナラバ、當時ノ當局ガ此ノ金融措置令ヲ實施致シマスル時期ト云フモノハ、財產稅其ノ他ノ徵稅ノ立案ヲ發表致シタ直前カ、若シクハ同時ニ之ヲ發表スベキデナカツタカト思フ、然ルニ前幣原内閣ハ如何ナル根據ト理由ヲ以テ致シテ居ルカ分リマセヌガ、財產稅ノ

調査令ノ実施ト云フモノヲ御承知ノ如ク三月ニナツテ行ツタノデアリマス、此ノ間ニ於テ有力ナル所ノ地主、勢力アル大事業家、大資本家ハ此ノ僅カ三、四箇月ノ間ニ換物活動ヲ旺盛ニ致シマシテ、國內ノ物價騰貴ヲ助長シタト云フ例ハ、洵ニ枚舉ニ遑ナイ程アリマス（拍手）一體幣原内閣ハ此ノ財産調査令ヲ發表スルト同時ニ、何故ニ金融措置令ヲモ同時ニ実施致サウト云フ決意ヲ持タナカツタカ、此ノ點ニ對シテ御伺ヒテ致スノデアリマス尙ホ更ニ私ハ之ヲ春秋ノ筆法ノ以テ言フ譯デハゴザイマセヌガ、幣原内閣ハ一方ニ於テ財産調査令ヲ發表シナガラ、一方ニ於テハ有力ナル地主階級若シクハ資本階級ノ換物ノ吁聲ナル活動ヲ援助センガ爲ニ、寧ロ三月モ其ノ実施ヲ延期シタモノデハナイカトサヘ私ハ想像致スノデアリマス（拍手）之ヲモソット端的ニ申上ゲマスナラバ、財産調査令ト金融措置令ノ一聯ノ發表ノ關係ハ、寧ロ政府ガ資本家ト地主階級ノ財産ヲ擁護センガ爲ニ、此ノ期間ヲ置イタト私ハ斷言シテモ憚ラナイ次第アリマス、此ノ措置ニ對シマシテ、現在ノ大藏大臣デアル石橋藏相ハ、幣原内閣ノ執リマシタ此ノ措置ニ對シ

テ、適切ナル措置デアルト今日モ御考  
ヘニナツテ居ルカドウカ、又只今申上  
ゲマシタ如ク、三箇月ノ期間ヲ置イタ  
コトニ依ツテ、全國的ニ有力ナル地主  
階級若シクハ資本家階級ノ換物ヲ助成  
シタ結果ニナツタト云フコトヲ御認メ  
ニナツテ居ルカドウカ、此ノ點ニ付テ

ハレマシタ場合ニハ、此ノ免稅點ハ御  
萬圓ガ適當ナリト主張サレタコトハ御  
承知ノ通リデアリマス、尙モ私共ノ社  
會氣ニ於キマシテハ、財產稅ノ基礎控  
除額ハ今日ノ物價狀況ニ照シ、又課母  
ノ對象トナルベキ國民生活ノ實況ニ即  
應スル意味合カラニ於キマシテモ、是  
低五萬圓ニ基楚空余免稅點引上ゲ

月々五十億圓乃至七十億圓ノ増發ト、  
ツテ、六月二十四日現在ノ通貨發行  
ハ正ニ四百億圓ヲ突破スル狀態ニナ  
テ來タ、此ノ通貨ノ増發ヲ見タコ  
ハ、事業會社或ハ資本家ガ設備資金  
シクハ運轉資金ニ名ヲ藉リテ銀行カ  
自己資金ヲ拂戻シ、而モソレガ生產  
面ニ張角アランバンチ、自家消費ニシ

時ノ闇相場ニ便乗シテ儲ケヨウトス  
アルヤウニ私ハ聞イテ居ルノデアリマ  
ス、此ノ不眞面目ナル所謂大資本家ヲ  
中心トシテノ弊害ガアツタカラ  
ラト云ツテ、眞面目デ眞劍ニ日  
本經濟產業再建ノ爲ニ生產意欲ヲ旺盛  
ニシテ、労働者モ資本家モ一體ニシテノ

更ニ此ノ機會ニ御伺ヒヨ申上ゲタイ  
ノデアリマスルガ、財産税ハ、御承知  
ノ如ク政府ノ當初ノ發表ニ依リマスレ  
バ、二萬圓ノ基礎控除ガアルコトニナ  
ツテ居リマス、此ノ二萬圓ノ基礎控除  
ニ對シテ、現在ノ大藏大臣アル石橋  
サンハ東洋經濟誌上ニ於キマシテ、在  
野當時屢々政府ノ執ツタ「インフレー  
ション」防止策ハ、結局ニ於テ國民大  
衆ノ生活ヲ擁護スルト云フコトモアツ  
タガ、本質的ニハ金融業者ノ救濟ニ外  
ナラカツタト、五月十一日ノ東洋經  
濟ニハツキリ書イテアツタコトヲ私ハ  
覺エテ居リマス、然ラバ大藏大臣ニ於  
キマシテハ、此ノ「インフレーション」  
防止ヲ目的ト致シマシタ所謂財產稅ニ  
對シテ、此ノ際大藏當局ニ於キマシテ  
ハ二萬圓ノ基礎的控除額ヲ三萬圓程度  
ニ引上ヲショウト云フ壯ニナツタト私  
ハ承ツテ居リマスルガ、自由黨並ニ進  
歩黨ノ各位ガ先月ノ末ニ政策協定ヲ行  
必要ガアルノデハナイカト思フノデアリ  
リマスガ、之ニ對シテ大藏大臣ハ自中  
黨、進歩黨ノ政策協定ノ十萬圓ト我だ  
ヲ變更スル固キ御決意ヲ今日持ツテ居  
ルカドウカ、其ノ點ヲモ併セテ御伺  
致シタインデアリマス

其ノ利息ハ、普通手形ニ依ツテ借入レ  
マスル所ノ利息一錢三厘、若シクハ一  
錢五厘、是ト同率ニ事業資金ノ融資モ  
取扱フト、斯ウ言ハレテ居ルヤウデア  
リマス、一體事業場、工場ニ自己資  
金、預金ヲ持チナガラ其ノ經營費ニ充  
テル所ノ金ヲ銀行カラ借リル場合、有  
力ナル現金ノ擔保ガアルニ拘ラズ借リ  
シテ銀行ニ通達ヲ致サレテ居ルヤウデ  
アリマスガ、是ハ私ニ言ハセルナラ  
バ、洵ニ妥當テナイト考ヘルノデアリ  
マス、一體大臣ハ如何ナル根據ト  
理由デ利息ト云フモノヲ同率ニ認メテ  
居ルノカ、之ニ對スル所ノ明快ナル理  
由ヲ私共ニ説明シテ解キタノデアリ  
マス、申スマデモナク只今私ガ申上げ  
マシタ中小工場ト云フモノハ、大藏大  
臣ハ地方ノ工場等ヲ餘リ御調査ガナカ  
ツタヤウデアリマスカラ、定メシ御  
存ジガナイト思フノデアリマスガ、中小  
工場ノ大部分ト云フモノハ、戰爭中ニ  
眞ニ工場主、労働者ガ一體トナッテ生  
命ヲ賭ケテ生產ノ增强ニ邁進ラシテ參  
ツタノデアリマス、而モ中小工場ト云  
フモノハ軍部官僚ノ庇護ト云フモノガ  
比較的薄カツタガ爲ニ、所謂労働者ノ  
貢金統制令ナドト云フモノガアツテ、  
餘リニ強力ニ此ノ恩恵ニ預カラナカツ

タ、其ノ他貢金ノ面ニ於キマシテモ、  
資材ノ購入ニ於テモ、アリト凡ユル方  
面ニ於テ、凡ユル惡條件ヲ克服シナガ  
ラ労働者、中小工場ノ營業主ト云フモ  
ノハ懸命ナル努力ヲ拂ツテ來、尙ホ其  
ノ外ニ生產増強ノ實現ヲ達成スル爲ニ  
各種ノ計畫ヲ立テマシテ、銀行カラ借  
入金ヲナシ、設備ノ擴充、労働者ノ雇  
入レノ增加ナドニモ眞剣ナル、眞面目  
ナル氣持ニ於テヤツテ參ツタノデアリ  
マス、然ルニ終戦ト同時ニ是等中小工  
場ハ一面ニ於テ厖大ナル銀行借入金ヲ  
負擔シナガラ、而モ今日ノ實況カラ致  
シマスナラバ、軍需工場ト云ハレテ居  
ル所ノ三千二百餘工場ノ中ニ、大藏大  
臣モ御承知ノ如ク、今日生產ヲ再開シ  
テ居リマスル所ノ工場數ト云フモノ  
ハ、僅カニ四割シカナイト私ハ聞イテ  
左様ナ制限ノナイ狀態ニ致シタイト考  
必ズシモ最低生活費ヲ保障スルト云フ  
スノデ、比較的小所得ノ國民ニモ應分  
ニ國稅ヲ負擔シテ貢フ、斯ウ云フ趣意  
デアリマシテ、是ハ是非早イ機會ニ  
アルト云フコトハ、毎々申上ゲマス通  
フ今日ノヤリ方ガ甚ダ不自然ナモノデ  
アルト云フコトハ、毎々申上ゲマス通  
信ジテ居ル次第テアリマス  
ソレカラ勤労者ニ對スル分類所得稅  
ヲ免除セヨト云フ御話デアリマスガ、  
必ズシモ最低生活費ヲ保障スルト云フ  
ヤウナ意味デ稅ハアル譯デハアリマセ  
ヌノデ、比較的小所得ノ國民ニモ應分  
ニ國稅ヲ負擔シテ貢フ、斯ウ云フ趣意  
デアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ於テ最低生活費デアルト致シマシテ  
モ、分類所得稅ノ控除ヲ五百圓マデニ  
シナケレバナラスト云フコトニハ相成  
ニシテアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ財產調査ヲ致シタモノト私ハ心得テ  
居リマスノデ、今日カラ考ヘマシテ  
モ、當時ノ事情上已ムヲ得ナカツタモ  
ソレカラ金融措置令ノ御話ト思ヒマ

ス、是等中小工場コソ私ハ日本産業經  
濟ノ推進力デアルト斷定致スノデアリ  
マスガ、是等中小工場ニ對シテ、大藏  
當局ハ如何ナル助成ト育成ノ方法ヲ今  
後執ル方針デアリマスカラ此ノ際御伺  
ヒ致シタインデアリマス  
尙ホ同僚ニ二、三ガ居リマスルノ  
デ、質問ノ要項ハ澤山ゴザイマスガ、  
省略ヲ致シマシテ、此ノ程度ニ私ノ質  
問ヲ止メテ置ク次第テアリマス(拍  
手)  
〔國務大臣石橋湛山君登壇〕  
○國務大臣(石橋湛山君) 只今ノ御質  
問ニ對シテ御答へ申上ゲマス、各自ノ  
收入五百圓以上ノモノヲ封鎖スルト云  
フ今日ノヤリ方ガ甚ダ不自然ナモノデ  
アルト云フコトハ、毎々申上ゲマス通  
信ジテ居ル次第テアリマス  
ソレカラ勤労者ニ對スル分類所得稅  
ヲ免除セヨト云フ御話デアリマスガ、  
必ズシモ最低生活費ヲ保障スルト云フ  
ヤウナ意味デ稅ハアル譯デハアリマセ  
ヌノデ、比較的小所得ノ國民ニモ應分  
ニ國稅ヲ負擔シテ貢フ、斯ウ云フ趣意  
デアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ於テ最低生活費デアルト致シマシテ  
モ、分類所得稅ノ控除ヲ五百圓マデニ  
シナケレバナラスト云フコトニハ相成  
ニシテアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ財產調査ヲ致シタモノト私ハ心得テ  
居リマスノデ、今日カラ考ヘマシテ  
モ、當時ノ事情上已ムヲ得ナカツタモ  
ソレカラ金融措置令ノ御話ト思ヒマ

少シ擴張致シマシタガ、瓦斯ノ料金デ  
アルトカ、電氣ノ料金デアルトカ、其  
ノ他細カク申上ゲマセヌガ、色々封鎖  
デ拂ヘルモノモアル次第テアリマス  
カラ、必ズシモ生活費ガ五百圓ニ限  
定サレテ居ルト云フ意味デハゴザイ  
マセヌ、御話ノ中ノ問題ハ大分給與ノ  
事柄ニ瓦ツテ居リマシテ、詰リ封鎖ト  
ハ又別問題ノ御指示ガアリマシタ、昨  
日大藏省内云々ト云フ御話モアリマ  
シタガ、政府職員ノ給與ニ付テハ、最  
近之ヲ改善スルコトニ相成リマシテ、  
相當滿足スペキ狀態ニナルコトト私ハ  
問ニ對シテ御答へ申上ゲマス、各自ノ  
收入五百圓以上ノモノヲ封鎖スルト云  
フ今日ノヤリ方ガ甚ダ不自然ナモノデ  
アルト云フコトハ、毎々申上ゲマス通  
信ジテ居ル次第テアリマス  
ソレカラ勤労者ニ對スル分類所得稅  
ヲ免除セヨト云フ御話デアリマスガ、  
必ズシモ最低生活費ヲ保障スルト云フ  
ヤウナ意味デ稅ハアル譯デハアリマセ  
ヌノデ、比較的小所得ノ國民ニモ應分  
ニ國稅ヲ負擔シテ貢フ、斯ウ云フ趣意  
デアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ於テ最低生活費デアルト致シマシテ  
モ、分類所得稅ノ控除ヲ五百圓マデニ  
シナケレバナラスト云フコトニハ相成  
ニシテアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ財產調査ヲ致シタモノト私ハ心得テ  
居リマスノデ、今日カラ考ヘマシテ  
モ、當時ノ事情上已ムヲ得ナカツタモ  
ソレカラ金融措置令ノ御話ト思ヒマ

ハ遺憾ナガラ所謂大金持、大地主ダケ  
ニ課稅ヲシテ今日ノ財政ヲ賄フト云フ  
所得ノ國民ニモ應分ノ納稅ヲシテ戴カ  
ナケレバナラス次第テアリマス、隨テ  
此ノ勤勞所得稅ヲ全廢シマストカ、或  
アルトカ、電氣ノ料金デアルトカ、其  
ノ他細カク申上ゲマセヌガ、色々封鎖  
デ拂ヘルモノモアル次第テアリマス  
カラ、必ズシモ生活費ガ五百圓ニ限  
定サレテ居ルト云フ意味デハゴザイ  
マセヌ、御話ノ中ノ問題ハ大分給與ノ  
事柄ニ瓦ツテ居リマシテ、詰リ封鎖ト  
ハ又別問題ノ御指示ガアリマシタ、昨  
日大藏省内云々ト云フ御話モアリマ  
シタガ、政府職員ノ給與ニ付テハ、最  
近之ヲ改善スルコトニ相成リマシテ、  
相當滿足スペキ狀態ニナルコトト私ハ  
問ニ對シテ御答へ申上ゲマス、各自ノ  
收入五百圓以上ノモノヲ封鎖スルト云  
フ今日ノヤリ方ガ甚ダ不自然ナモノデ  
アルト云フコトハ、毎々申上ゲマス通  
信ジテ居ル次第テアリマス  
ソレカラ勤労者ニ對スル分類所得稅  
ヲ免除セヨト云フ御話デアリマスガ、  
必ズシモ最低生活費ヲ保障スルト云フ  
ヤウナ意味デ稅ハアル譯デハアリマセ  
ヌノデ、比較的小所得ノ國民ニモ應分  
ニ國稅ヲ負擔シテ貢フ、斯ウ云フ趣意  
デアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ於テ最低生活費デアルト致シマシテ  
モ、分類所得稅ノ控除ヲ五百圓マデニ  
シナケレバナラスト云フコトニハ相成  
ニシテアリマスカラ、假ニ五百圓ガ今日本  
ニ財產調査ヲ致シタモノト私ハ心得テ  
居リマスノデ、今日カラ考ヘマシテ  
モ、當時ノ事情上已ムヲ得ナカツタモ  
ソレカラ金融措置令ノ御話ト思ヒマ

ノダト云フコトヲ申シタト云フ御話デ  
アリマスガ、確カニ左様ナコトヲ申シ  
タコトガアルノデアリマス、ト云フノ  
ハ、私ハ所謂金融資本ヲ擁護スルト云フ  
意味デ申シタノデハアリマセヌデ、詰  
リアノ金融緊急措置令ガ出ズニ、預金ガ  
ドシ／＼引出サレマシタナラバ、銀行  
ハ遂ニ倒壊セザルヲ得ズ、隨テ引出シ  
タ預金者ハ宜ウゴザイマスガ、残ツタ  
預金者ハ非常ナ損害ヲ被ル危険ガアツ  
タノデアリマス、デアリマスカラ其ノ  
結果トシテアレガ果シテ當時ノ政府ガ  
豫定シタ通リノ效果ヲ學ゲタカドウカ  
ト云フコトハ別問題ト致シマシテ、ア  
レハアノ限りニ於テハ、アノ場合ハヤ  
ハリヤラナケレバナラカツタ措置デ  
アツタト私ハ今日信ジテ居リマス、其  
ノ銀行ヲ保護シタト云フ意  
味ハ、預金ヲ保護シタ、  
斯ウ云フ意味デゴザイマス

ソレカラ財産税控除額ノコトニ付テ  
御尋ネガアリマシタガ、是ハ只今尙ホ  
研究致シテ居リマスノデ、ドレダケニ  
致スカト云フコトヲ此處デマダ申上ゲ  
ル時機ニナツチ居リマセヌガ、是モ亦  
先程申上ゲマスヤウナ譯デ、色々御説  
ガアリマシテ御尤モト存ジマスケレド  
モ、何セ國民所得或ハ財産ノ狀況ガ、  
割合ニ小サイ人ガ多イト云フ次第デア  
リマスカラ、十分色々御説ト御満足  
ヲ與ヘルヤウナ處置ガ出來ルカドウカ  
ト云フコトヲ只今懸念シテ居ルヤウナ  
次第アリマス  
ト云フコトヲ只今懸念シテ居ルヤウナ  
原則トシテ新貸出ニ依ルト云フコトニ  
付キマシテ御尋ネガアリマシタガ、是  
ハ御話ノ中ニモアリマシタヤウニ、今  
マダノヤウニ、封鎖預金ニ依ツテ事業  
資金ヲ出スト云フ方法デアリマスト、  
偶々預金ヲ持ツテ居ルガ、其ノ事業ハ  
必ズシモ生產ニ十分ノ力ガ入ツテ居ラ  
ヌ所ガ生產ニ力ヲ入レル事業ニハ却テ  
預金ガナイト云フヤウナ現象ナシ々多  
イノデアリマス、ソコデ我々シマシ  
テハ、出來ルダケ日本ノ將來ノ產業ヲ  
見渡シマシテ、日本ニ於テ之ヲ助長シ  
育成シナケレバナラヌ事業ニ資金ガ十  
分ニ供給サル、ヤウニ、ソレニ反シテ  
生産ニ餘り努メナイト云フ方面ニ資金  
ガ流レ込ムト云フコトヲ防ぐ必要ガア  
ル考ヘマシテ、先般ノ如キ處置ヲ執  
ツタノデアリマス、其ノ爲ニ中小工業  
等ニ迷惑ヲ掛ケルト云フ懸念モ無論過  
渡的ニハゴザイマスノデ、是ハ左様ナコ  
トガナイヤウニト、日本銀行其ノ他ノ  
金融機關等ニモ十分ニ言ウテ、其ノ處  
置ヲ執ツテ居ル筈デアリマシテ、私ハ  
ソレガ爲ニ有力ナ中小工業ガ非常ナ困

難ニ陥ツテ居ルト云フ事實ハ恐ラクナ  
イダラウ、萬一ソレガアリマシタス  
レバ、是ハ躊躇ナク左様ナコトノナイ  
ヤウニ努メルコトニ致シテ居ル次第ア  
リマシテ、若シ實際ノ事實ガゴザイ  
マシタラバ、御知ラセヨ願ヘレバ大變  
幸ヒニ存ジテ居ルノデアリマス、  
尙ホ左様ナ處置ヲ執リマシタ爲ニ自  
然預金ガアリマス人モ、新シク金ヲ借  
リレバ利子ヲ拂ハナケレバナラヌト云  
フ矛盾ガ茲ニアルト云フコトハ、御指  
摘ノ通り私モ十分ソレヲ認ヌテ居ル次  
第デアリマスガ、封鎖預金、新聞、ソ  
レカラ事業ニ健全ナ資金ガ流通シテ參  
ルヤウニト云フ、色々ナ一連ノ政策ノ  
上カラ左様ナ部分のニ多少不公平ト申  
シマスカ、サウ云フ現象ガ生ジテ居ル  
次第アリマシテ、是ハ何時モ申上ゲ  
マスヤウニ、新聞、舊聞ト云フヤウナ  
區別、或ハ封鎖預金、自由預金ト云フ  
ヤウナ區別、是ガ撤廢セラル、マテ左  
様ナ矛盾ガ時々起ルノデアリマスガ、  
カニ致シタイト、只今折角努力シテ居  
ル次第ゴザイマス

○議長(樋貝詮三君) 是ニテ質疑ハ終  
了致シマシタ、各件ノ審査ヲ付託スベ  
キ委員ノ選舉ニ付テ御詔り致シマス  
○山口喜久一郎君 日程第一乃至第十  
二ノ十二件ヲ一括シテ議長指名二十七  
名ノ委員ニ付託セラレントヲ望ミマ  
ス

農林大臣 厚生大臣 芦田 均  
大藏大臣 子爵濱澤 敬三  
外務大臣 吉田 茂  
國務大臣 松本 桑治  
内務大臣 三土 忠造  
司法大臣 岩田 宣造  
商工大臣 小笠原三九郎  
國務大臣 厚生大臣 芦田 均  
文部大臣 小林 一三  
運輸大臣 副島 千八  
能成  
村上 義一  
第一條 主要食糧(食糧管理法第二  
求める件) ヨ議題ト致シマス——和田  
農林大臣  
シテハ、今後ノ日本ノ產業ガ中小工業  
ニダイニ依存シナケレバナラヌト云フ  
コトハ、常ニ繰返シテ申シテ居ルヤウ  
ニ、又深ク左様ニ信ジテ居ル次第ア  
リマシテ、大藏省ト致シマシテ、金融部  
面ニ於ケル處置ハ十分ニ其ノ方面ニハ  
講ズル覺悟デアリ、又現ニ是レヽヽト  
云フ別段法律トカ何トカ云フモノハ出  
シマセヌケレドモ、興業銀行其ノ他ニ  
モ命ジマシテ、其ノ點ニ於テハ萬違算ナ  
キヤウニ取計ラツテ居ル次第アリマ  
ス  
以上甚ダ簡単アリマスガ、時間モ  
餘リアリマセヌノデ、御答ヘヲ終リマ  
ス  
内閣總理大臣兼第一復員大臣第一復員大臣  
男爵幣原喜重郎  
昭和二十一年二月十七日  
御名御璽  
第十三 食糧緊急措置令(承諾を  
求める件)  
第十三 食糧緊急措置令(承諾を  
求める件)  
第十三 食糧緊急措置令(承諾を  
求める件)  
第十三 食糧緊急措置令(承諾を  
求める件)  
第十三 食糧緊急措置令(承諾を  
求める件)

條ノ主要食糧ニシテ農林大臣ノ指定スルモノヲ謂フ以下第八條迄同ノ規定又ハ同法第九條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ政府ニ賣渡スベキ主要食糧ヲ當該命令ニ定メタル時期迄ニ賣渡サザル主要食糧ニシテ政府ハ當該命令ニ係ル主要食糧ニシテ政府ニ賣渡サザル數量ニ相當スルモノヲ收用スルコトヲ得

第二條 政府前條ノ規定ニ依リ主要官吏ヲ收用セントスルトキハ當該糧ニ付收用セントスル主要食糧ヲ收用セントスルトキハ當該官吏ヲシテ收用セントスル主要食糧ニシテ政府ニ賣渡サザル主要食糧ニシテ政府ニ賣渡サザル數量ニ相當スルモノヲ收用スルコトヲ得

第四條 令書ノ交付又ハ前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ收用ニ支障ヲ及ボス處ナキ場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受タルニ非ザレバ當該主要食糧ヲ受ケタル者ハ所在場所ヲ變更シ又ハ之ヲ賣渡シ、貸與シ、質權ノ目的ト爲シ其ノ他當該主要食糧ノ形質若ハ所在場所ヲ爲シ新ナル處分ヲ得ズ

第五條 令書ノ交付又ハ第三條ノ通知ヲ受ケタル者ニシテ令書ニ記載シタル引渡時期ニ於テ當該主要食糧ノ所有者タルモノハ令書ニ記載シタル引渡時期ニ當該主要食糧ノ所在場所ニ於テハ令書ノ交付又ハシタル引渡時期ニ於テ所有者知レザル場合ノ他所有者ニ交付スルコト著シク困難ナル場合ニ於テハ糧原ニ基キ當該主要食糧ヲ占有スル者(以下管理者ト稱ス)ニ對シ之ヲ交付スルヲ以テ足ル

第三條 當該官吏ガ令書ノ交付ヲ爲シタルトキハ政府ハ遲滯ナク令書ノ交付ノ際ニ於ケル當該主要食糧ノ所有者又ハ管理ノ者(令書ノ交付ヲ受ケタル者ヲ除ク)其ノ他當該主要食糧ニ付權利ヲ有スル者ニシテ

前項ノ規定ハ當該主要食糧ニ關シテ知レタルモノニ對シ之ヲ通知スルモノヲ交付後當該主要食糧ノ賣渡サザル者ニシテ知レタルモノニ對シ亦同ジ

第六條 政府ハ當該官吏ヲシテ收用セベキモノノ進行中ト雖モ其ノ適用ヲ妨ゲズ

第七條 政府ハ當該官吏ノ定ムル所ニ依リ第一條ノ規定ニ依ル收用ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ハ食糧管理法第三條第一項ニ規定スル主要食糧ニ付テハ同條第二項ノ規定ニ依ル買入ノ價格、其ノ他ノ主要食糧ニ付テハ時價ニ準據シテ農林大臣之ヲ定ム

第一條ノ規定ニ依リ收用シタル主要食糧ハ食糧管理特別會計ノ所屬トシ第一項ノ規定ニ依ル補償金ハ同會計ノ負擔トス

第一項ノ規定ニ依ル補償金ハ一年内ニ償還スベキ無記名證券ヲ以テコトヲ得

第十一條 食糧管理法第三條第一項ノ規定又ハ同法第九條ノ規定ニ基ク命令ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

斯ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣和田博雄君登場)

○國務大臣(和田博雄君)只今議題ニナリマシテ食糧緊急措置令ニ付キマシテ御説明申上ゲマス

テ知レタルモノニ對シ之ヲ通知スルモノヲ交付後當該主要食糧ノ賣渡サザル者ニシテ知レタルモノニ對シ亦同ジ

強制執行手續、國稅徵收法ニ依ル強制徵收手續其ノ他此等ノ手續ニ準ズベキモノノ進行中ト雖モ其ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ規定ニ依リ發行スル證券ハ之ヲ食糧管理特別會計法第三條ノ規定ニ依リ發行スル證券ト看做ス

タル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第一條乃至前條ニ定ムルモアリタル時ニ於テ政府ハ其ノ所有權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

第十三條 第一條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ收用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

アリタル時ニ於テ政府ハ其ノ所有權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

シ必要ナル報告ノ徵取其ノ他主要食糧ノ收用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

ノヲ除クノ外主要食糧ノ收用ニ關ルモノトス

第十四條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 政府ハ當該官吏ヲシテ收用セベキ主要食糧ノ引渡ヲ受ケシムス處ナキ場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受タルニ非ザレバ當該主要食糧ニ付收用ニ支障ヲ及ボス處ナキ場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受タルニ非ザレバ當該主要食糧ノ引渡ヲ受ケタル者ハ所在場所ヲ變更シ又ハ之ヲ賣渡シ、貸與シ、質權ノ目的ト爲シ其ノ他當該主要食糧ノ形質若ハ所在場所ヲ爲シ新ナル處分ヲ得ズ

第十五條 第八條ノ規定ニ基ク命令ノ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 政府ハ青果物、魚介類其ノ他勅令ヲ以テ定ムル食料品ニ付其ノ配給ノ適正又ハ價格ノ安定ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ

第十六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ之ヲ受ケシタル者ハ五年以下反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十條 主要食糧(食糧管理法第二條ノ主要食糧ヲ謂フ以下第十一條迄同ジ)ノ配給ニ關シ不實ノ申告ヲ爲シ其ノ他不正ノ手段ニ依リ主要食糧ノ配給ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ之ヲ受ケシタル者ハ五年以下

第十二條 第十三條又ハ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第四十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第五十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第六十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第七十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第八十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第九十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零一条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零三条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百零九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十一条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十二条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十三条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十四条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十五条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十六条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十七条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十八条 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百一十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百二十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百三十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十三條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十四條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十五條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十六條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十七條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十八條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百四十九條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百五十條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百五十一條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百五十二條 第九條ノ規定ニ依ル主要食糧ノ政府ニ對各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第一百五十三條 第九條ノ規定ニ

豫テ是ハ豫想サレタコトデゴザイマシタガ、更ニ此ノ供給面ニ付テ見マスルニ、現實ノ集荷狀況ガ極メテ寒心スベキモノガゴザイマシタ、即チ本年一月ニ於キマスル政府ノ買入數量ハ約千九十六萬石、供出割當數量ニ對シマシテ漸ク四割一分ノ狀態デゴザイマシテ、之ヲ昨年ノ同期ニ於キマスル約七割、一昨年ノ同期ニ於キマスル約八割六分ノ成績ニ比較致シマスル時ニ、絕對數量ノ點ニ於キマシテモ、又買入ノ進捗率ノ點ニ於キマシテモ極メテ不成績デアリマシテ、此ノ儘推移致シマスル場合ニハ、洵ニ容易ナラヌ事態ガ豫想セラレタノデゴザイマス、隨ヒマシテ此ノ狀態ヲ急速ニ改善致シマスルコトハ、一刻モ忽セニスルコトノ出來ナイ實情デゴザイマシタノデ、政府ト致シマシテハ主要食糧ノ管理ノ強化竝ニ食糧品ノ配給ノ適正及ビ價格フ安定ニ關シマスル緊急措置ヲ講ジマシテ、國民生活ノ安定、延イテ公共ノ安全保持ヲ期シマスル爲ニ、本緊急措置令ノ制定ヲ仰ギマシタ次第ゴザイマス  
本勅令ノ主ナル骨子ト致シマスル所ハ、第一ニ主要食糧ノ所有者ガ、政府

ノ供出割當ニ依リマシテ、政府ニ賣渡シマセス場合ニ於キマシテハ、其ノ事  
情ガ特ニ質實ナモノニ付キマシテ、政府ニ於キマシテ強制的ニ收用スルコト  
ガ出來ルト云フコトニ致シタ點デゴザイマス、此ノコトハ御承知ノヤウニ從  
來ノ事例ニ徴シマシテモ、一部少數ノボシマシテ不良ナル者ノ存在ガ、善良ナ一  
農家ニ少カラヌ惡影響ヲ及ボシマシテ、而ゼ本年ハ其ノ傾向ガ特ニ顯著ノ  
如クニ見受ケラレマシタノデ、所謂農業者ガ損ヲ見タト云フヤウナ從來ノ弊  
害ヲ矯メマスル共ニ、之ニ依リマシテハ、昨年ノ秋生鮮食料品ノ再統制デ  
ゴザイマス、生鮮食料品ノ統制ヲ撤廢致シタノデゴザイマス、其ノ結果市場ニ出  
ガ、其ノ價格ノ點ニ付キマシテ非常ナ暴騰ハ或ル程度ノ増加ヲ見マシタケレドモ、  
ニ多大ノ困難ヲ感ジマシテ、國民生活ノ安定上モ憂慮スベキ狀態デゴザイマ  
シタノデ、配給ノ適正、價格ノ安定ヲ致シマシテ、一般消費者ハ是ガ入手  
期シマスル爲ニ、適當ナ統制ノ措置ヲ

再び執り得ルヤウニ致シタノデゴザイマス

致シマシテ、只今議題トナリマンシタ食糧緊急措置令ニ關シマシテ、農林大臣、内務大臣、司法大臣ニ、時間ノ關係上簡單ニ質問致シタイト思ヒマス、本措置令ガ施行セラレネバナラナイ所ノ理由トシテ、食糧ノ問題ガ極メテ重大デアルト云フ點ニ鑑ミマシテ、已ムヲ得ナイト考ヘルノデアリマスルガ、併シ此ノ際本案提出ニ當リマシテ、左ノ質疑ヲ致シテ置キタイト存ジマス。

本措置令ハ果シテ十分效果ガアルカドウカ、極メテ疑ハシイノデアリマス、泥棒ヲ見テ繩ヲ綴シテ居ル點カラ見マザイマスルガ、寧ロ泥棒ガ逃ゲテカラ繩ヲ絞フト言フ方ガ或ハ適當デナイヤカ、即チ時期ヲ失シテ居ル點カラ見マシテモ尙更デアル、斯ウ私ハ考ヘルノデアリマス、強權發動ニ依リマスル所ノ六月十五日現在ノ主要食糧ノ收用狀況ト云フモノヲ見マスルニ、米ニ換算致シマシテ體カ二千四百六十一石デアリマス、斯カル僅少ナ效果シカナイノデアル、農民ノ生産意欲ヲ非常ニ減退スルヤウナ措置ハ甚ダ有害無益デアルト、斯ウ考ヘラレルガ、ドウ御考ヘニナルニ、農民ノ生産意欲ヲ非常ニ減退スルヤウナ措置ハ甚ダ有害無益デアルト、本來供出ノ成績ガ極メテ不良ナ原因ト云フモノハ、根本的ニハ農民ガ政府ヲ信賴シナイト云フコトデアル、即チ供出ノ割當ガ不合理デアル、土地ノ

問題、或ハ肥料ノ問題、或ハ農機具ノ問題、ニ、斯カル措置合モ極メテ效果ガ少イト思ハレルノデアルガドウカ、又強權發動ノ矛盾ガ非常ニ甚ダシイ例ガ地方ニ澤山アルノデアリマス、例ヘ眞面目ナ農民ガ、事情已ムヲ得ナイト云フニモ拘ラズ強權發動ヲ受ケテ居ル、或ハ農民組合ニ入ツテ居ルト云フダケデ強權發動ヲ受ケル、然ルニ反面非常ナ惡質農デアリナガラ、當然發動ヲ受ケキ者ガ受ケナイト云フヤウナ事情ガ澤山アルノデアリマス、此ノ點ドウ御考ヘニナルカ

ノ、食糧調整委員會ノ實際ノ運營ノ方  
法ハドウスルノカ、是モ極メテ重大ナ  
問題デアリマシテ、丁寧ニ御答ヘヲ願  
ヒタイト思ノデアリマス  
次ハ内務大臣、司法大臣ニ御尋ネシ  
減ガ加ヘラレテ居ルト云フコトガアル  
ノデアリマシテ、ドウ云フ基準供出  
或ハ買出ヲ取締ツテ居ラレルノカ、又  
ドウシテ東北地方ト大都市トサウシタ  
差ガアルノカ、又食糧營團ニ對シマシ  
テ地方ニ於キマシテハ非常ナ激シ非  
難ガアルノデアリマスガ、ソレニ對ス  
ハシノデアリマシテ、政府ハ抜本寒  
本的ノ問題、即チ土地、肥料或ハ供出  
等ノ問題が解決セズシテ、如何ニ法律  
ヲ作リマシテモ、其ノ效果ハ極メテ疑  
ハシノデアリマシテ、政府ハ抜本寒  
本的ノ努力ヲシナケレバナラズコトヲ  
警告致シマシテ、本措置令ニ賛成スル  
ノデアリマスガ、以上御尋不致シマス

〔國務大臣和田博雄君登壇〕  
○國務大臣(和田博雄君) 只今ノ堂森  
サンノ御質問ニ御答ヘ申上ゲマス、此  
ノ緊急措置令ガ時期ガ遅レマシタ故  
シタノデハナイカト云フヤウナ御質問  
デゴザイマスガ、成程私モ時期ガ遅レ  
コトハ之ヲ認メルニ齊カデアリマセ  
ヌ、併シ只今申上ゲマシタヤウニ本緊  
急措置令ヘ、アノ時ノ事情トシマシテ  
ハ、洵ニ已ムヲ得ナイ事情ガアソタノ  
デゴザイマシテ、只今御説明ニ申シマ  
シタヤウニ、是ハ寧ロ傳家ノ寶刀的ナ

意味ニ於キマシテ供出ノ狀況ヲ促進致  
シマシタ效果ハ認メナケレバナラズト  
思ヒマス、一時下り坂ニザイマシタ  
供出状況ガ、此ノ強權ヲ發動スルト云  
フ聲ニ依リマシテ盛返シテ來マシタコ  
トニ付キマシテハ、是ハ數字的ニモ明  
カデゴザイマスノデ、此ノ點ニ關シマ  
シテハヤハリ效果ガアツタ云フコト  
ハ認メナケレバナラナイト、斯様ニ考  
ヘテ居リマス

ソレカラ供出ノ問題ニ關係致シマシ  
テ、肥料ノ問題、土地問題ト云ツタ

農政上ノ根本ノ問題ノ解決が必要デハ  
ナイカト云フ御意見ニ對シマシテハ、  
私モ感デゴザイマス、肥料ニ付キマ  
シテハ、ソレノノ策ヲ研究中デゴザ  
イマスルシ、土地問題ニ付キマシテハ、  
本會議ニ於キマシテ先般御答ヘ致シマ  
シタヤウニ、關係方面トモ緊急ニ密接  
シタノ供出、本年ノ馬鈴薯、麥ニ付キ  
ナ連絡ヲ執ツテ居リマス、近ク準備ガ  
出来マスルナラバ、私ハ法案ヲ提出致  
シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、日下  
準備中デゴザイマス

ソレカラ供出ニ對シマスル新聞ノ支  
拂ニ付キマシテハ、昨年ノ米ノ割當  
以上ノ供出、本年ノ馬鈴薯、麥ニ付キ  
シタノ付キマシテハ、全額新聞拂致シマ  
スル方針ヲ決定致シタ次第デゴザイマ  
ス

諸ニ付キマシテモ、同様ノ方針デ行キ  
タイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス  
食糧調整委員會ノ運營ニ付キマシテ  
ハ、是ハ耕作農民ヲ主體ト致シマシ  
テ、眞ニ民主的ナ運營ヲ期シタイト考  
ヘテ居リマス、其ノ仕事ト致シマシテ  
ハ、供出割當ノ公正化、保有食糧ノ認  
定、供出ノ促進、肥料農機具等報獎資  
料ノ割當等、各般ノ事項ニ付テ本委員  
會ノ本當ノ意味ノ勘キヲ、我々ト致シ  
マシテハ期待致シテ居ル次第デゴザイ  
マス

一割減スルコトノ昨年七月ニ於キ  
スル臨時措置ヲ、其ノ後ノ食糧事情ガ  
好轉シマセス爲ニ、已ムヲ得ズ續ケテ  
居ルノデゴザリマシテ、出來ルダケ早  
ク復元致シタイ希望ハ、政府トシテハ

ルト云フ大目的ノ爲ニ、萬全ヲ期シテ  
此ノ食糧危機ヲ切抜ケマス爲ニ、國民  
ガ乏シキヲ分チ合ヒシテ進ンデ行ク  
ト云フコトガ、今日ノ食糧對策トシテ  
ノ中心問題ダト思ノデアリマス、營  
業ノ取締ニ於キマシテモ、此ノ目的ニ  
ニ付キマシテモ、此ノ目的ニ  
ニ、供出ノ割當方式ニ於テ或ル程度不  
合理ナ點ガアツタ云フコトモ一ツノ  
原因ト思ヒマスルガ、其ノ中不正不當  
ナ事理ニ基クモノニ付キマシテハ、市  
町村食糧調整委員會ノ積極的ナ活動ニ  
期待致シマシテ、今後ノ麥、薯ノ供出  
ニ於キマシテ十分調整致シタイト考ヘ  
マシテ、今回御承知ノヤウナ新シイ割  
當方針ヲ決定致シタ次第デゴザイマ  
ス

キマシテ、多少ノ相違ノ出來マスコト  
ハ、已ムヲ得ナイコト思ノデアリ  
マス、食糧供出ヲ致シマス地方ニ於キ  
マシテ、ソレノ妨害トル惡質ナル行  
為ハ、之ヲ斷乎取締ル、又消費地區ニ  
於キマシテハ、數日或十數日ニ亘リ  
マシテ缺配ガ起リマンテ、其ノ消費地  
方ノ人々ノ生活ニ非常ナ困難ガ加ハツ  
テ來居ルト云フヤウナ場合ニ於キマ  
シテ、餘リ微ニ入リ細ヲ穿ツタ取締ヲ  
シマスコトハ、慎マケレバナラズト  
云フヤウナ事情ガ展開シマシタ場合ニ  
ハ、其ノ社會情勢ニ合フヤウナ取締ヲ  
スルコトモ、是レ亦已ムヲ得ナイコト  
ト思ノデアリマス、其ノ邊地供出地  
及ビ消費地ニ於キマシテノ時宜ニ依リ  
マシテ、取締ノ緩嚴ノ起ツテ來ルト  
云フコトハ、是ハ實際問題トシテ已ム  
ヲ得ザルコトト思ヒマスルガ、併シ何  
レニ致シマシテモ、見逃スコトノ出來  
ルト云フ大目的ノ爲ニ、萬全ヲ期シテ  
此ノ食糧危機ヲ切抜ケマス爲ニ、國民  
ガ乏シキヲ分チ合ツテ食糧危機ヲ切抜ケ  
ル、決シテ營業權ナドヲ發動シテ、強  
ヒテ之ヲ供出スルノデハナイ、斯様ナ

農家ト云ヒ或ハ消費者ト云ヒ、供出ニ  
對スル所ノ自由意思ガ起リマシテ、茲  
ニ日ヲ送ルニ連レマシテ、主要食糧ハ  
リマンシタコトハ、固ヨリ適當ナルコトト  
ハ存ズルノデアリマスルガ、時ノ内閣  
ガ若シ斯様ナ強權ヲ發動スルナラバ、  
ニ、此ノ食糧緊急措置令ヲ御發令ニナ  
リマンシタコトハ、固ヨリ適當ナルコトト  
乎タル信念ヲ以テ政策ヲ實行シナカツ  
タノデアルカ、此ノ強權發動ニ至リマ  
スル間ニ於キマス所ノ主要食糧ノ横流  
レハ、何トシテモ農家ガ横ニ流シタト  
云フ所ノ責任モアリマスケレドモ、農家  
タノデアルカ、此ノ強權發動ニ至リマ  
スル間ニ於キマス所ノ主要食糧ノ横流  
レハ、何トシテモ農家ガ横ニ流シタト  
云フ所ノ責任モアリマスケレドモ、農家  
ヲシテ横ニ流サシメタ所ノ大キナ責任  
ハ、時ノ内閣アリマスル所ノ幣原現國  
務大臣ノ政策ノ潤ニ軟弱デアツタ責任  
ダト私ハ思フノデアリマス(拍手)然ラ  
バ今日食糧危機トナツタノモ、或ル意  
味カラ申シマスルト時ノ内閣ノ軟弱ナ  
ル政策ノ結果デアルト、私ハ斯様ニ考  
ヘマスルガ故ニ、此ノ間ニ於キマスル  
所ノ現國務大臣幣原殿ノ此ノ間ノ詳細  
ナル政策ノ行違ヒニ付テ、ハツキリト  
全天下ニ御聲明ヲ相顧ヒタイ次第ナノ  
デアリマス

アノ農機具、肥料ヲ製造致ス所ノ大キヤ  
ナ會社ニ對シテハ、何ガ故ニ強權ヲ發  
動シナインデアルカ(拍子)是ガ即チ農  
家ヲシテ非常ニ供出意欲ヲ減退致サシ  
メタ所以ナノニアリマス、將來此ノ點  
ニ付テ政府御當局ハ如何ナル決心ヲ持  
ツテ居ラレルカ、此ノ點ハツキリトモ  
御答ヘヨ御願ヒ申上ゲタインデアリマ

カレマセス、農家ハ決シテ好シニ得  
スルノデハアリマセヌ、生キテ行カレ  
ナイカラ、致シ方ナク聞ヲサスヤウニ  
スル政府ノ農産物價ノ決メヤウガ惡イ  
ト私ハ考ヘル、之ニ對シテ、政府ハ將  
來農産物貨ノ價格ヲ如何ニ御考ヘデア  
ルカ、ハツキリト御答ヘヲ願ヒタイン  
デアリマス

ニ付キマシテ、政府ハ將來供出方法ニ  
付テハ從來通り實收豫想ニ依ツテ供出  
割當ヲナサルノデアルカ、或ハ又由烟  
各ニニ於テ生産責任數量ヲ示シテ、  
勤勉ナル農業者ニ對シテハ澤山ノ保  
有米ヲ置カシメ、惰農ニ對シテハ少  
量ナル所ノ保有米ヲ置カシメルガ如  
キ、斯様ナ供出意欲ヲ昂揚致スガ如キ  
政策ヲ執ラレルノカ、ハツキリ御答辯

○國務大臣(男爵幣原豊三郎君) 只今  
ノ御質問ハ、強權發動ハ當然ナコトデ  
アルケレドモ、思ヒ切ツテ之ヲ斷行シ  
ナカツタガ爲ニ、其ノ間ニ横流レト云  
フヤウナモノガ行ハレルヤウニナツタ  
ノデアル、是ハ即チ其ノ當時ノ政府ノ  
責任デアルト云フ御話デアリマシタ、  
此ノ強權發動ト云モノハ、申スマデ  
モナク是ハ目的デハアリマセヌ、手段  
デアリマス、丁度先別事本大臣ハ申ト

乎タル信念ヲ以テ政策ヲ實行シナカツ  
タノデアルカ、此ノ強權發動ニ至リマ  
スル間ニ於キマス所ノ主要食糧ノ横流  
レハ、何トシテモ農家ガ横ニ横流シタト  
云フ所ノ責任モアリマスケレドモ、農家  
ヲシテ横ニ流サシメタ所ノ大キナ責任  
ハ、時ノ内閣アリマスル所ノ幣原現國  
務大臣ノ政策ノ沟ニ軟弱デアツタ責任  
ダト私ハ思フノデアリマス(拍手)然ラ  
バ今日食糧危機トナツタノモ、或ル意  
味カラ申シマスルト時ノ内閣ノ軟弱ナ  
ル政策ノ結果デアルト、私ハ斯様ニ考  
ヘマスルガ故ニ、此ノ間ニ於キマスル  
所ノ現國務大臣幣原殿ノ此ノ間ノ詳細  
ナル政策ノ行違ヒニ付テ、ハツキリト  
全天下ニ御聲明ヲ相顧ヒタイ次第ナノ  
デアリマス

スルガ、果シテ政府ガ此ノ主要食糧供出ニ對シテハ斷乎強權ヲ實行スルトスルナラバ、農家ガマトモニ供出シテケルヤウナ農產物價ヲ決メナクテハナリマセヌ(拍手)只今私町村ノ狀態ヲマスルニ、假リニ一町耕作致シマシテ、ノミノ全收量ガ、良所イ所ト惡イ所ノ田地ヲ持ツテ居リマスルカラ、概オニ五、六石乃至七石ト見ルノガ妥當アリマス、爾カ致シマシテ、供出シマス所ノ數量ハ概オ十一石乃至十三石、假リニ十二石ト致シマシテモ三千六百圓ノ實收ト相成ルノアリマス、然ルニ誠ツテ現在ノ農機具、肥料ノ價格ノ昂騰ヲ致シテ居リマシテ、此ノ諸經費將ニ二千圓ニ垂ントスルノガ現在農家の必要金額

ノ供出方法ニ致シマシテハ、如何様ニ農家ニ作レヨ／＼ト言ツテモ作ル害ガアリマセヌ、ナセナラバ供出ニ對スル所ノ基礎ヲ常ニ實收豫想ニ置イテ居ラレル、隨テ實收報告ガ多イ程供出數量ハ植エテ來ル、農家ヲシテ言ハシムルナラバ、作レバ作ツタダケ取ラレルヂヤナイカ、一生懸命ニ働イタ所ガ作ツタダケ全部取ラレルヂヤナイカ、是デハ一生懸命汗水垂ラシテ自給肥料ナンカ作ル必要ハナイヂヤナイカ、隨テ増産モ出來マセヌガ、供出モ減退シテ居ルノガ現狀デアリマス、茲ニ於テ私ハ、凡テノ主要食糧ノ供出ニ當リマシテハ、田或ハ畑ノ值打ニ依ツテ等級ヲ決メテ、其ノ等級毎ニ生產責任數量ヲ示シテヤル、生產責任數量ヲ示シテ、ソレ

尙ほ最後ニ、食糧事情ノ逼迫ニ伴ヒ  
マシテ、貞今提案ニナツテ居リマス所  
ノ緊急措置令ガ御發令ニナツタノデア  
リマスルガ、爾來供出ニ付キマシテハ  
果シテ政府ノ豫定通りニ供出ガ完了シ  
テ居ルノデアルカ、或ハ又現在未完了  
地ガアルナラバ、如何様ナル地方ガ未  
完了地デアリ、且又如何ナル理由デ以  
テ完了致サナイノデアルカ、而シテ此  
ノ完了致サザル所ノ地方ニ對シテハ政  
府ハ將來如何ナル所ノ政策ヲ立ツテ、  
主要食糧供出シナクテハナラズモノデ  
アルト云フ認識ヲ全國民ニ與ヘラレル  
ノデアルカ、若シ現在未完了デアリマ  
スル所ノ地方ニ對シテ、是ナリニズ  
ルズルト濟マサレタナラバ、全國農民  
ハ、政府ハ口喧シク言々ケレドモ、出サ

レタ通り、是ハ傳家ノ寶刀デアリマス、傳家ノ寶刀ト云フモノハ、之ヲ拔イテ斬リ付ケルト云フノガ目的デハアリマセス、身ヲ護ルノガ即チ本來ノ目的デアリマス、ソレ故ニ傳家ノ寶刀ト同様ニ、此ノ強權發動モ成ベクハ斯ウ云フ手段ヲ盡サズニ、他ノ方法デ以テヤツテ行カウト思ソテ、出來ルダケ努力メタノデアリマス、ソレガ或ハ手後レニナツタ仰セラレマスケレドモ、我ハ目的ト手段ト云フモノトハ別々ニ致シマシテ、目的ト云フモノハ強權發動デハナイ、出來ルダケ國民ノ自由ノ意思ヲ以テ供出ヲ頼ムト云フコトニスルノガ本來ノ性質デアルト考ヘテ行ハナカツタノデアリマス(拍手)

アリマス、之ヲ引キマシテ、米ノ收度ノ生活費ニ充當セラレマシテ、アトノ三割ガ麥、馬鈴薯、甘藷ノ收入ヲ以テ補フノガ普通ノ農家ノ經濟状態アリマス、然ラバ、三千六百圓ノ中デ以テ、二千圓ハ肥料、農機具ニ取ラレ、殘ル五百圓デ以テ八箇月、即チ一箇月二三百圓デヤレト云フコトニ相成ルノデ、農家ハ四人ノ自分ノ家族ハ養ハレナイ、隨テ米麦ヲ横ニ流サナクテハ生キテ行

以上作ツタ物ハ自分勝手ナモノデアルト云フ所ノ伸縮性ヲ農家ニ與ヘル所ニ於テ、初メテ増産意欲モ昂揚致シマス、隨テ供出數量ハ一體ドノ位ノ程度カト云ヘバ、政府ハ昭和二十一年度ニ於キマスル所ノ米ノ供出ハ何ボ取ルト云フ、ソレデ直チニ何割位ノモノデアルト云フ目安ガ付ク、茲ニ初メテ食糧増産上ニ農家ガ安心ヲシテ精進ヲ致シ、以テ供出ノ完遂ヲ致スコトガ樂々ト相成ツテ來ルト信ズルノデアリマス(拍手)之

ナクテモ宜イデヤナイカト云フヤウナ  
結果ニナツテ、我ガ國ノ食糧事情ハ幾  
年經ツテモ安心スルコトハ出來得マセ  
又、此ノ未完了地域ニ對スル所ノ政府  
ノ將來ノ政策ニ對シテ、ハツキリト御  
答辯ヲ御願ヒ申上ゲタイノデアリマス  
以上ノ五點ニ付キマジテ、幣原國務  
大臣竝ニ利田農林大臣ヨリ明確ナル所  
ノ答辯ヲ御願ヒ申上ゲマシテ、降増ス  
ル次第アリマス(拍手)

○國務大臣(和田博雄君) 伊藤サンノ  
御質問ニ御答へ致シマス、第一點ハ農業資材ニ對シテモ強權ノ發動ヲシテハドウカト云フコトデアリマスガ、農家ニ對シテ食糧ノ供出ヲ願ヒ、又其ノ供出ニ關シマシテ強權ノ發動ヲ特ニ惡質ノ農家ニ致シマスル以上ハ、農業ヲ營ミマスル上ニ必要ナ農業ノ資材ニ付テモ、政府トシテサウ云フ政策ノ體系ヲ整ヘテ臨ムト云フコトハ勿論御同感デアリマス、之ニ付キマシテ、農機具ニ

關シマシテハ、其ノ農機具ノ出荷ニ付キヤシテ強制命令的ナ措置ヲ既ニ講ジテ居ル次第ゴザイマス、肥料ニ付キシテ之ヲ確保スルトカ、或ハ不正ナ流出現來ルダケ徹底ニ取締ルトカ、其ノ點ニ付キマシテハ十分今後努力致シテ行キタイト考ヘテ居リマス  
供出割當ノ時期ノ點デゴザイマスルガ、從來供出ノ割當ノ時期ニ付キマシテハ、色々々議論ガアツタ點デゴザイマシテ、殊ニ昨年度ハ非常ニ遅レタソデゴザイマスルガ、此ノ點ニ付キマシテハ、私ト致シマシテハ今度ノ新米ニ付キマシテハ、早期ノ供出割當ヲ致シタイト思ヒマシテ準備中デゴザイマス、其ノ供出ノ割當方法ニ付キマシテハ、御説ノ點モ十分考慮致シマシテ合理的ニ決メテ行キタイト思ヒマス、唯農家ノ増産意慾ト云フコトハ十分考慮スペキ點デゴザイマスガ、農家ト言ヒマシテモ、農家ノ中ニハ御承知ノヤウニ大經營ノ農家モアリマスレバ、貧農モアルノデゴザイマス、隨ヒマシテソレ等ノ農家ノ内部ノ實情ヲ十分考慮致シマシテ、公平合理的ナ割當方法ヲ講ズルコトが必要ダト、斯様ニ考ヘテ準備致シ居ル次第ゴザイマス  
全國ノ供出狀況ハ、六月二十日ノ現在ニ於キマシテ、未利用資源ヲ除キマシテ、米其ノ他ノ雜穀類ニ於キマシテハ約千九百九十五萬石デ、割當量二千五百萬石ニ對シマシテ七九・六%デゴ数量デゴザイシテ、既ニ検査ヲ了シマシタ數量、即チ供出數量ハ六月十日現

在デ二千三十六萬石、割當ニ對シマシテ八一・三%トナツテ居リマス、今後ノ供出ニ付キマシテハ、一ツハ前々カラ申シテ居リマスヤウニ、救國運動ト致シマシテ之ヲ促進致シマスル一面、今回ノ新麥及ビ新馬鈴薯ト綜合的ニ考ヘマシテ、各縣ニ割當ヲ致シマシテ、是ガ達成ヲ期シテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第ゴザイマス

農産物ノ價格ノ點ニ付キマシテハ、御說ノヤウニ唯肥料ト米トヲ比ベマスレバ、ソコニ不均衡ノアリマスルコトハ私モ前カラ、認メテ居ル所デゴザイマス、唯御考ヘト願ヒタインハ、肥料ハ、米ノ生産費トシマシテハ御承知ノヤウニ、勞力ト並ンデ大體約三〇%ツツヲ占メテ居ル一要素アゴザイマス、隨ヒマシテ唯肥料ト米トダケ數字的ニ並ベルノデハイケナインデアリマシテ、ヤハリ經營ノ内部ニ入りマシテ、又一面ニ於キマシテハ、肥料ノ生產ノ實情、數量、其ノ他肥料ノ方面ニ於キマスル實情ヲ十分考慮致シマシテ、農家ノ購買力其ノ他米價等色々事情ヲ綜合致シマシテ、農産物ト工產物トノ間ノ均衡ヲ取ツテ行ク方向ニ進ンデ行クベキダト考ヘテ居ル次第アリマシテ、是等ノ點ニ付キマシテハ十分努力致シタイト考ヘテ居リマス

○伊藤實雄君 只今ノ幣原國務大臣ノ御答辯ハ、私ガ御尋ね致シマシタ要件トハ沟ニ要件が間違ヒナノデ、私ノ要件ハ、昨年米ノ割當當時ニ於テハ、供出ハ唯單ニ愛國心ニ懇ヘロ、決シテ營察權ナンカニハ懇ヘハシナイト云フヨトデアツタ、曾テ私郡ノ割當會議ニ行キマシタガ、然ラバ出サナイト頑張ツタ者ハ一體ドウスルンダト言ツタ時

ニ、縣警察部長ハ、是ハ警察トシテハ  
手ノ付ケヤウガナイ、出サナイモノハ  
仕様ガナイトマデ明白ニ答辯ヲ致シタ  
ノデアリマスガ、爾來責任ノアル同ジ  
内閣度掌ノ裏ヲ返シタ如ク、農家ニ煮  
湯ヲ飲マスト申シマスカ、突如シテ  
強權ヲ發動致シマシタ此ノ責任ハ一體  
ドウデアルカ、之ヲ御尋ネ申シタノデ  
アリマス

〔國務大臣男爵原喜重郎君登壇〕

○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 私ハ  
只今其ノ點ヲ答辯シタ積リデアリマス  
ガ、元來強權發動ナント云フモノハ我  
我ハ望ンデ居ナカツタノデアル、成ベ  
クハ國民ノ自由ノ意思ヲ以テ供出ラシム  
テ貰ヒタイ、其ノ爲ニ全力ヲ盡ス積リ  
デアツタノデアリマス、初メカラ傳家  
ノ寶刀ヲ抜クト云フノガ我々ノ方針ニ  
ハナカツタノデアリマス、然ルニ其ノ  
結果ハドウカト申シマスルノニ、直正  
ニ自分ノ割當テラレタ分量ヲ供出スル  
人ハ、其ノ儲ヶラスル機會ハ少クテ、  
却テ何トカノ口實ヲ以テ横流シヨシ  
テ、其ノ供出ヲシナカツタ人ガ利益  
ヲシテ居ル、是デハドウモ世ノ中ハ公  
平ト云フコトデハナイト云フコトデ、  
已ムヲ得ズ此ノ強權發動ト云フコトニ  
變ツタノデアリマス(拍手)是ハ一體何  
處ガ悪イノデアリマセウ、私ハソレハ  
責任トハ思フ譯ニ參リマセヌ  
○伊藤實雄君 私ノ質問ハ是デ打切り  
マス

○議長(鵜見證三君) 是ニテ質疑ハ終  
了致シマシタ、本件ノ審査ヲ付託スベ  
キ委員ノ選舉ニ付テ御詰リ致シマス

○山口喜久一郎君 本件ハ議長指名三  
十六名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望

第十四、隱匿物資等緊急措置令

業

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一

テハ其ノ者ノ氏名又ハ名稱、住所及職業又ハ事業

項ニ依リ隠匿物資等緊急措置令ヲ發  
可シ之ヲ公布セシム

三、當該物資ノ名稱、數量及所在ノ場所並ニ本令施行前一年間ニ八手ノナルモノニ付テ、其ノ旨

昭和二十一年二月十七日

六五  
所有又八占有ノ目的

復員大臣  
内務大臣  
司法大臣

数量及今後四月間ノ使用又ハ販賣ノ見込数量

外務大臣  
國務大臣  
吉田松本  
桑治

（戸主及家族ノ業務上所有シ又ハ占有スルモノ）

厚生大臣  
大藏大臣  
商工大臣

有スルモノヲ除ク以下同ジニ付テ  
ハ前項本文ノ規定ニ拘ラズ世帯主ハ

國務大臣 小林 一三  
文部大臣 安倍 能成  
農林大臣 副島 千八

同項ニ掲タル事項ヲ同一ノ報告書三  
取纏メ記載シ之ヲ提出スペシ此ノ場  
合ニ於テハ同項但書ノ規定ハ調査物

運輸大臣 村上 義一  
勅令第八十八號  
關稅物資等緊急措置令

資ニシテ卅帶ナ同ジクスル戸主及家族ノ所有シ又ハ占有スルモノノ合計數量ニ付之ヲ適用ス

**第一條** 本令施行ノ際現ニ別表ニ  
タル物資(以下調査物資ト稱ス)ヲ  
所有シ又ハ占有スル者ハ本令施行

占有スル調査物資ニ關スル記載ニ付

ノ日ニ於テ所有シ又ハ占有スル  
査物資ニ付左ニ掲タル事項ヲ記載

前項ノ規定ニ依ル世帶主ノ報告書ノ作成ニ對シ協力スベシ

第一項ノ規定ハ昭和二十年商工農林省令第一號第一條ノ規定ノ適用ヲ受クル者ノ所有ニ係ル紡織品、絹糸、絲又ハ紡織品ニ付テハ之ヲ適用セズ第三條 前條ノ規定ニ依リ報告書ヲ提出スベキ調査物資ヲ所有シ又ハ占有スル者ハ本令施行ノ日ヨリ昭和二十一年四月二十日ニ至ル期間内に於テ該物資ヲ譲渡シ又ハ隠匿若ハ退藏ノ目的ヲ以テ其ノ形質ヲ變更シ若ハ之ヲ移動スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一二該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 物資統制令又ハ昭和十二年法律第九十二號ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ從ヒ又ハ此等ノ命令ニ基タ處分ニ依リ調査物資ヲ譲渡スル場合

二 重要産業團體令ニ依ル統制會ノ統制規程又ハ商工組合法ニ依ル統制組合ノ統制規程ノ定ムル所ニ從ヒ調査物資ヲ譲渡スル場合

三 商工大臣又ハ地方長官ノ指示スル配給經路ニ從ヒ調査物資ヲ譲渡スル場合

四 商工大臣ノ指定ズル者(以下「統制機關ト稱ス」)ガ調査物資ヲ譲渡スル場合

五 統制機關ニ對シ調査物資ヲ譲渡スル場合

六 統制機關ノ指示ニ基キ調査物資ヲ譲渡スル場合

七 農業團體法ニ依ル農業團體、水產業團體法ニ依ル水產業團體、森林法ニ依ル森林組合又ハ市町村其ノ他ノ公共團體が調查物資ヲ譲渡スル場合

八 工場又ハ事業場ニ於テ其ノ從

業者ニ對シ其ノ業務上必要トスル數量ノ調査物資ヲ譲渡スル場合九 小賣業者ガ消費者ニ對シ調査物資ヲ譲渡スル場合十 特別ノ事情ニ依リ商工大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ譲渡スル場合前項ノ規定ニ依リ調査物資ヲ譲渡スル禁止セラレタル場合ニ於テハ當該物資ハ之ヲ譲受クルコトヲ得ズ第三條 主務大臣又ハ地方長官調査物資又ハ調査物資以外ノ國民生活ノ安定ヲ確保スル爲必要ナル物資ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ(以下「指定物資ト稱ス」)ノ配給ノ適正又ハ價格ノ安定其ノ他國民經濟ノ正當ナル運行ヲ認ムルトキハ調査物資又ハ指定物資ヲ隠匿シ又ハ退藏スト認メラル所有者其ノ他此等ノ物資ヲ多量ニ所有スル者ニ對シ期間其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ當該物資ノ譲渡ヲ命ズルコトヲ得

第四條 調査物資又ハ指定物資ヲ隠匿シ又ハ退藏スト認メラル所有者其ノ他此等ノ物資ヲ多量ニ所有スル者ハ主務大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ第一項ノ規定ニ依リ主務大臣又ハ地方長官ノ指定スル者ガ調査物資又ハ指定物資ノ所有者知レザル場合ニ依リ當該物資ノ引渡ヲ受クルトキハ其ノ對價ヲ供託スベシ第二條 主務大臣又ハ地方長官ハ其ノ認可ヲ爲シタルトキハ之ヲ爲スモノトシ主務大臣又ハ地方長官ハ其ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ對價ヲ供託スベシ第三條 又ハ第四條ノ規定ニ依リ讓渡又ハ引渡ヲ命ゼラレタル調査物資又ハ指定物資ニ付擔保權ヲ有シタル者ハ第三條第四項、第四條ノ規定ニ依ル讓渡ヲ求ムルコトヲシク困難ナル場合ニ於テ第三項ノ規定ニ依リ引渡ノ命令ヲ爲シタルトキハ當該物資ノ引渡ヲ相手方ノ對價ヲ供託セシムベシ此ノ場合ニ於テハ當該物資ノ引渡ヲ相手方ノ供託ヲ爲シタル時當該物資ノ讓渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條 調査物資又ハ指定物資ヲ隠匿シ又ハ退藏スト認メラル所有者其ノ他此等ノ物資ヲ多量ニ所有スル者ハ主務大臣又ハ地方長官ノ指定スル者ガ譲渡ヲ受クベキ調査物資又ハ指定物資ノ名稱、數量及價格、所有者、譲渡ノ時期其ノ他必要ナル事項ニ付主務大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受ケテガ譲渡ヲ求メタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ當該物資又ハ指定物資ニ付擔保權ヲ有シタルトキハ其ノ對價ヲ供託スベシ第五條 調査物資又ハ指定物資ニ強制競賣手續、國稅徵收法ニ依ル強制徵收手續、要求物資使用收用令ニ依ル使用又ハ收用ノ手續其ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 第三條又ハ第四條ノ規定ニ依ル調査物資又ハ指定物資ノ譲渡規定ニ依リ當該物資ノ譲渡ヲ受ケタル場合又ハ當該物資ノ所有者ニ對シ同項ノ規定ニ依リ當該物資ノ譲渡ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 主務大臣又ハ地方長官ハ調査物資若ハ指定物資ニ付關係者ヨリ必要ナル報告ヲ微シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、店舗、倉庫ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ調査物資、指定物資、書類帳簿等ヲ検査セシムルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ第八條 主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ關係アル法人又ハ其他ノ團體ノ職員ヲシテ前條ノ規定ニ依ル検査ニ關スル事務ニ從事セシムルコトヲ得前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ當該物資ノ譲渡ヲ受ケタル場合又ハ當該物資ノ所有者ニ對シ同項ノ規定ニ依リ當該物資ノ譲渡ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス



ゾテ居リマスルガ、其ノ量タルヤ實ニ  
マダ微々タルモノニアリマス、隨テ其  
ノ微々タル原因ノ尤ナルモノハ、所謂  
適當ナル時期ニ於テ之ヲヤラナカツタ  
ト云フコトニ私ハ原因ガアルト思ソノ  
デアリマス、私ハ諄ニヨトハ申シマセ  
ヌ、唯幣原前首相ニ現國務大臣ニ對  
シマシテ、此ノ點ニ付テ如何ニシテ斯  
様ナザマナ時期ニ於テ本緊急措置令  
ガ公布サレタカト云フ點ニ付テ明確ナ  
ル所ノ御答辯ヲ望ム次第デアリマス  
第二ノ點ハ、是ハ本措置令ノ調査物  
資ノ内容ニ付テ和田農林大臣、星島商  
工大臣ニ御尋ネ致シタイト思ヒマス、  
先程申上ゲマシタ如ク、本措置令ハ二  
月十七日ニ出ザレテ居ルノデアリマ  
ス、其ノ措置令ニ於キマシテ所謂調査  
物資ト云フモノガアリマス、調査物資  
ノ總テノモノガ所謂主食ヲ含ンデ居ラ  
ナイ、手袋トカ、油トカ、絲トカ、織  
物トカ、左様ナ衣類、油、電氣器具、  
鋼鐵、錫等ノ金屬ニ及ンデ居ルノデア  
リマスガ、主食ニ至ツテハ一ツモ觸レ  
テ居ラナイノデアリマス、食糧ニハ觸  
レテ居ラナカツタ、今日食糧危機ガ叫  
バレテ居リマスル時ニ、既ニ今日アル  
コトハ其ノ當時ニ於テハツキリト分ツ  
テ居ルベキ筈ナノデアリマス、然ルニ  
拘ラズ此ノ二月十七日ニ於ケル措置令  
ハ、何等ノ食糧ヲ含ンデ居ラナイ、御  
存ジノ如ク現在ハ一千萬餓死線上ニ彷  
ウテ居ルト云フ極メテ逼迫シタル時代  
デアリマスガ、政府ハ二月十七日ノ本  
隠匿物資等緊急措置令ヲ發布シタ時ノ  
點ニ付テ、其ノ當時ノ氣持ヲ率直ニ農  
林大臣並ニ星島商工大臣ニ御尋ネ致フ

後四月二十七日ニ至リマシテ、農林省告示第八十六號ニ依リマシテ、隠匿物資等緊急措置令第三條ニ基イテ、次ノヤニ定メルト云ノ指令ガ出マシテ、四月二十七日ニナツテ初メテ米穀・大麥・裸麥・小麥・雜穀・穀粉・甘諸及びビ馬鈴薯竝ニ其ノ加工品タル食糧、麵類、「パン」、澱粉食料品、罐詰、砂糖、斯様ナ食料品ヲ附加ヘタノデアリマス、ナゼ初メカラ之ヲ附加ヘテ措置令ニ入レテ置カナカツタカト云フ點ヲ御答辯願ヒタイ、尙ホ續キマシテ五月二十三日ニ至リマシテ、政府ハ農林省告示第九十八號トシテ隠匿物資等緊急措置令第三條ニ基イテ、次ノヤウニ指令スルトシテ、味噌、醤油、煉粉乳、食用油、斯様ナモノヲ又附加ヘテ居ルノデアリマス、甚ダ不徹底ダツタ所ノ緊急措置令ガ初メニ出来テ居ル、完全ナ緊急措置令トシテ公布サレナケレバナラナイ所ノモノガ、斯様ニ非常ニ抜ケテ拔ケテ抜ケ切ツテ居ルノデアリマス、尙又大事ナコトニハ、今申上ゲタヤウニ、此ノ緊急措置令ノ中ニハ水產物資、所謂漁網、漁具、斯様ナモノモ拔ケテ居ルノデアリマス、現在一億國民ガ所謂調査物資、色々ナモノヲ調べテ、隠退藏物資ヲ徹底ニ摘發シテ貰ハナケレバナラナイト云フ要望ハ、一般大衆ノ聲トシテ澎湃トシテ起ツテ居ルノデアリマス、而モソレハ現在ノ食糧危機ヲ突破セんガ爲ニ叫バレ居言葉デアリマス、今申上ゲタヤウニ、水產物資、漁網、漁具ト云フヤウナモノガ、如何ニ水產物獲得ノ上ニ重要ナル物資デアルカト云フコトハ、私ガ申上ゲルマデモナクハツキリシテ居ルノ

○議長(繩貝詮三君) 静慮ニ——田万廣文君(縦) 只今私ノ申上ゲ  
シタコトニ誤リガアリマスナラバ、西  
消ヲ致シテ置キマス、能ク聽イテ戴、而  
タイト思ヒマス、裁判所ニ於テ斯ウニ  
フ事實ガアルナラドウナルカ、自  
ノ晝飯ヲ自分ノ配給量カラ減シテ食  
テ居ルカ、或ハ食券デ食ベ居ルカ、  
云フ問題ガアルノデアリマス、此ノ點  
ニ付テ私ガ斯様ナコトヲ申上ゲルノ  
何ガ故デアルカ、ソレハ近来ニ於ケ  
裁判所ノ諸公ハ闇取引、僅カ一升二升  
ノ米ノ闇取引ヲシテ居ル者ヲ公判ニ引  
張ツテ來ル、サウシテ諸公ガ言フコ  
ガ、ドウ云ノコトヲ言ウテ居ルカトアリ  
ヘバ、自分達ハ二合一勺デ食ウテ居  
ル、皆大衆ハ二合一勺デヤツテ居ル、  
ニ拘ラズ、オ前ガヤルコトハ善クナ  
ト云フコトヲ言ウテ居ルノデアリ  
ス、此ノ點ヲ私能ク調査シマシテ  
所、——斯様ナ米ガ隠匿物資其ノ他  
中ニナイト云フコトハ誰モ言ヘナイテ  
デアリマス、斯カルガ故ニ私ハ司法部  
ニ於テ徹底的ニシテ、

ソテ居ラナインガ現狀ナノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ私ハ飽クマデモ社會ヲ代表致シマシテ、社會黨ハ所謂社會民主主義、最大多數ノ最大幸福ヲ願フ政治ヲ榜樣シテ居リマス社會黨ト致シマシテハ、此ノ隱匿物資ノ摘發ニ付キマシテハ、絕對的ニ公正ナル所ノ摘發ヲ斷乎トシテヤツテ戴クコトヲ私ハ叫ンデ居ルノデアリマス〔發言スル者多シ〕

○譜長(樋貝謹三君) 靜浦ニ  
○田万廣文君(續) 尚ホ農業會倉庫、水產團體ノ倉庫、ソレ等ノ所謂官僚系統ノ倉庫ニ於テ多數ノ隱匿物資ガ舉ヅテ居ルト云フ事實ハ何ヲ物語ルカ、所謂ソレハ政府ノヤリ方ガ洵ニ徹底シテ居ラス、所謂官僚摘發ノ失敗ガ茲ニ見受ケラレルノデアリマス

尙ホ最後ニ「一申上ゲタイコトハ、民間ノ協力ヲバ告示デ商工省其ノ他農林省ニ於テハ求メテ居リマスケレドモ、此ノ民間協力ノ程度ガ、所謂現場ニ検査ニ行クコトヲバ拒否シテ居リマス、唯密告ダケヲサセテ、サウンシテ現場ニ行ヅテソレヲ摘發スルコトニハ參加セシメテ居ラナイ、隨テ自分が被害シテ、自分が現場デ立會ツテ、是レは是レノ物資ガアツタ云フコトガハツキリ分ヅテ、是ガ「下云云」「ルート」ニ依ヅテ一般大衆ノ口ナリ、其ノ他生活ニ向ケラレテ居ルカト云フコトヲ知ラナケレバ協力ハ私ハ出來ナイト思フノデス、此ノ點カラ考ヘマシテ、私ハ所謂此ノ隠匿物資ノ摘發ニ民間ニ協力ヲサスコトハ、從來ノヤウニ官僚的ナル秘密主義ヲ排シマシテ、公開主義ヲ以テ臨ンデ戴キタイ、斯ウ考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ司法大臣

並ニ大村内務大臣ノ御管辯ヲ明確ニ致シテ戴キタイト思フノデアリマス、私ノ質疑ハ之ヲ以テ終ルコトト致シマス

卷之三

〔國務大臣和田博雄君登壇〕  
○國務大臣(和田博雄君) 私ニ關シマ  
スル限りニ於キマシテ簡単ニ御答辯致  
シマス、四月二十七日ニ指定ヲ致シマ  
シタニ拘ラズ、二月ノモノニハ入ツテ  
居ナカツタ言ヒマスノハ、實ハ食糧  
管理法ト食糧緊急措置令ノ運用方出来  
ルト思ツテ居リマシタノデ、初メノ時  
ニハ入ツテ居ナカツタノデアリマス  
ガ、是ノミテハ不十分アルト考ヘマ  
シタノデ一ト申シマスルノハ食糧管  
理法デハ賣渡命令ハ發セラレマスガ、  
收用ガ出來ナイノデ、四月二十七日ニ  
隠匿物資ノ緊急措置令ノ中ニ色々々ノ食  
糧關係ノ物資ヲ入レタノデゴザイマス  
〔國務大臣大村清一君登壇〕

テ居ル積リデアリマス、又摘發シマ  
タ物資ノ適正ナル處置ニ付キマシ  
モ、是ハ警察カラ經濟行政面ノ方ニシ  
シマシテ、ソコデ正當「ルート」ニ乘  
テ公正ナル處置ノ出來マスクトヲ努  
テ居ル譯デアリマス、又是ぞ警察外  
方面ニ於キマシテ適正ニ扱ツテ戴ク  
トヲ切望致シテ居リマス、又警察面  
於キマシテモ其ノ點ニ出來ルダケ協  
ヲ致ス積リデ居リマス

〔國務大臣星島二郎君登壇〕

○國務大臣(星島二郎君) 實ハ率直  
申シマスト、終戦直後占領軍ガ來タ  
ニハドンナコトガアルカモ知レヌト  
フノデ、餘程宣傳モアツタノカ、皆  
ロタヘ廻ツタ結果ト致シマシテ、其  
當時ノコトヲ思ヒマスレバ、必ズシ  
政府ヲ責メル譯ニモ行キマセスガ、「  
リ」と呼ブ者アリ) 私ハ寧ロ進駐軍  
日本ニ進駐サレマシタ時ノ様子ヲ見  
實ハ感心シタモノアリマス、先般  
民間ヲ責メル譯ニモ行カナイ(其ノ  
リ)ト呼ブ者アリ) 私ハ寧ロ進駐軍  
率直ニ吐露致シタ次第アリマス、  
レデ今日其ノ當時ノコトヲ顧ミテ、一  
直ニ出シテ呉レ、出シタモノハ全部  
需ニ廻ハスンダ、斯ウ云フコトデ今  
努メテ居ルノデアリマシテ、概不出  
參リマシタ、是ハ何レ委員會等或  
モソト率直ニ申上ガタ方ガ宜イト思  
マスケレドモ、相當出テ參ツテ居リ  
ス、例へば主ナ物資ニ致シマシテモ、  
揮發油ガ千六百「キロリットル」、或  
機械油ガ約五千「キロリットル」、生  
ム」ガ千三百「トン」、地下足袋ガ十  
萬足、其ノ他靴下ノ如キハ百五萬足  
ナツテ居リマス、織物ガ四十八萬反  
云フヤウナ譯デ、相當出テ居リマス、

又はレ以外ニ特殊事件ト致シマシテ正  
式ニ引繼ガレマシテ、ソレガ正當ル一  
ト」ヲ通シテ今日一般民需ニ振向ケラ  
テ居ル數ヲ見マスレバ、是デ殆ド私ハ  
出盡シテ居ルト思ヒマス、是ガ刑罰  
法規アリマスケレドモ、今ニナツテ  
良心的ニ出シテ戴ケバ丸公價格テ之ヲ  
買取ルト云フコトデヤツチ居リマスノ  
デ、先ヅ「是ハ成功デアラウ、斯様ニ  
思ヒマスノデ、今後トモサウ云フ方針  
デ行キタイト考ヘテ居リマス、ナゼ之  
ヲモソツト早クヤラナカツタカト云フコ  
トニ對シテハ、其ノ當時ノ内閣ノ人ニ  
聽イテ貰、タイト思ヒマス(笑聲、拍手)  
〔國務大臣男爵幣原嘉重郎君登壇〕  
○國務大臣(男爵幣原嘉重郎君)終辭  
勿々此ノ緊急措置令ヲナゼ出サナカツ  
タノデアルカト云フ御質問アリマシ  
タガ、終戦勿々ノ際ハ私等ノ内閣ハ出  
來テ居リマセス、私等ノ内閣ハ其ノ當時  
カラ三番目ノ内閣デアリマス(笑聲)併  
シナガラ今カラ思ツテ見レバ、成ルベ  
クスウツツヤウナ措置令ハ早く出シタ  
方ガ宜カタト思ヒマス、併シナガラ終  
戦當時ノ混雜ノ中デ、恐ラクハ斯ウ  
云フ所マデ思ヒヲ廻ラスダケノ餘裕ハ  
ナカツタデアラウト私ハ想像致シマ  
ス、今日カラ言ツテ見テモ詮ノナイコ  
トダト考ヘマス(拍手)

或ハ收納トカ云フヤウナ事件モ豫想セレマスノデ、其ノ點ニ付テハ司法省當局トシテハ十分ノ警戒ヲ加ヘ、萬一サウ云フモノガ發見サレタ場合ニハ嚴戒モナ處置ヲスル積リデアリマス  
只今容易ナラヌコトヲ御聽キシタクデアリマス——是ハ私ハ嚴重ニ取調ベル積リデアリマス(拍手)不肖私ハ屢々裁判官初めに事、所謂司法官ニ對シテ、嚴肅公正ニ付テモ相當寒心ニ堪ミト云フ考ヘラヤルベキコトヲ身ヲ以テ訓戒シテ居ノデアリマス、此ノ司法部ノ一部ガヨレバ、私ハ日本ノ將來ト云フコトヲ付テモ相當寒心ニ堪ミト云フ考ヘラツテ居リマス、司法當局ニ關スル限りニ於テハ、私ハ十分ノ警戒ヲスル積リテ居リマスカラ、ドウゾ左様御諒承願ヒタイト思ヒマス(拍手)  
○田万廣文君 司法大臣ノ答辯ニ依マスト、嚴重ニ調查スルト言フ、私確實ナ證據ヲ持ツテ居リマスガ、是又追ツテ司法大臣ニ御尋ネ致シタインヒマス  
尙ホ幣原國務大臣ノ御答辯デアリスルガ、二十年十月九日ニ幣原サン内閣總理大臣トシテノ印綬ヲ受ケランテ居ルノデアリマス、終戦ガ八月十二日デアリマスカラ、ソレカラ後ニ隨即掛チナインノデアリマス、隨テ只今ノ御質問ヲ終良心的ナ點ヲ認メテ私ハ質問ヲ終マス

○山口喜久一郎君　本件ハ議長指名二十七名ノ委員ニ付託セラレントヲ望ミマス

○議長(樋貝詮三君)　山口君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(樋貝詮三君)　御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後四時十三分散會

議長(樋貝證三君) 山口君ノ動議ニ  
異議アリマセヌカ  
〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕  
議長(樋貝證三君) 御異議ナシト認  
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、  
ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次  
ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマ  
ス、本日ハ是ニテ散會致シマス  
午後四時十三分散會

キ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

或ハ收傭トカ云フヤウナ事件モ豫想サ  
レマスノデ、其ノ點ニ付テハ司法省當局トシテハ十分ノ警戒ヲ加ヘ、萬一サ

キ委員ノ選舉ニ付テ御詰リ致シマス  
○山口喜久一郎君 本件ハ議長指名ニ  
十七名ノ委員ニ付託セラレントヲ望